

# 第 5 章 「DLA〈書く〉」

## DLA 〈書く〉 概要

### (1) 目的

- ・ **DLA** 〈書く〉では、まとまった文(章)を書く力を測ります。
- ・ 書く力は教科学習言語能力の大きな部分を占めるもので、考える力と文字にする力の両方が必要です。文字・文法の習得はもちろん基礎作文力の大切な要素ですが、文字化する前の考える力にも焦点をあてます。
- ・ **DLA** 〈書く〉では、書きたいことがあっても文字化に至らない段階の子どもから考えたことを引き出すため、また、書いたことを振り返り次につなげるために対話を行います。

### (2) 対象

- ・ **DLA** 〈書く〉は、文字習得が一定程度進み文を書くことの指導が始まっている児童生徒、話したことを文字化することができる児童生徒を対象とします。**DLA** 〈読む〉と同様、日本語の文字を十分に習得できていない児童生徒に対しては使用できません。

### (3) 方法

- ・ 課題を与えて考える経験をさせ、書くことへの興味を喚起します。  
低学年・中学年には口頭で課題を与え、高学年・中学生にはプリントで課題を提示します。
- ・ 書くことの習熟度や得意不得意により、二つのやり方があります。
  - ＜自分から進んで書くことができる場合＞  
自分から進んで書くことができる場合には、書き上げた後の対話により、書く姿勢や内容を振り返り、書こうとしたことが何だったのか確認します。
  - ＜なかなか書き始められない場合＞  
書くことを見つけるのに苦労したり、どう書いていいかわからずなかなか書き始められなかったりという場合には、まず、書くことを見つけるために対話を行ないます。書き終わった後にも、振り返りのための対話を行ないます。
- ・ 詳しくはp76の実施手順と留意点、〈書く〉「実践ガイド」をご覧ください。

### (4) 構成

- ・ **DLA** 〈書く〉は、次の5つからなっています。
  - ① 「課題例 W1～W8」  
子どもに合わせて課題を選んでください。  
選ぶ際には  
「年齢枠別作文テーマ」(p74)  
「テーマごとの課題例」(p75)  
を参照してください。  
W1～W4は口頭で与える課題で、W5～W8は課題プリントが巻末資料にあります。
  - ② 「実践ガイド W1～W8」(「書くまえに」「書きましょう」「書いたあとで」)(p80-95)  
課題例に沿って手順や発問例を用意しました。  
事前に読んでおき、また、実施の際に必要なに応じて参照します。

- ③ 巻末資料
  - ・低・中学年の場合は、作文用紙（p.165 - 167）
  - ・高学年の場合は作文課題（p.163 -164 課題番号W5～W8）  
必要に応じて拡大コピーしてお使いください。
  - ★高学年以上は原稿用紙を用意してください。
- ④ 「診断シート W1～W8（p96-103）」  
課題に対応したシートをコピーしてお使いください。
- ⑤ 「JSL評価参照枠（p104）」  
診断シートに記入した結果を、JSL評価参照枠「書く」に照らし合わせて、  
ステージを決定します。
- ⑥ 「DLA 実施レポート」・「DLA採点表〈全体評価〉」（p. 139-140）  
「診断シート」で得られた結果を記入します。

## （5）実施の前に

### 事前準備

- ・概要・実践ガイドを読み、手順や留意点を頭に入れる
- ・対象となる児童生徒に合わせて課題の目星をつける  
⇒ p.74「年齢枠別作文テーマ」p.75「テーマごとの課題例」を参照してください。
- ・下記の「用意するもの」がそろっているか確認する

### 用意するもの

- ・巻末資料作文用紙のコピー（低・中学年）または原稿用紙（高学年以上）
- ・巻末資料課題プリントのコピー（高学年以上）
- ・メモ用紙（白紙）（書くことを考える際、必要に応じて使用）
- ・DLA〈書く〉実践ガイド
- ・その他 日頃の学習環境や必要に応じて、児童生徒用の辞書・単語カードなどの参考資料

### 【年齢枠別作文テーマ】

作文テーマ	低学年		中学年	高学年	中学生	
	1年生 6-7歳	2年生 7-8歳	(3,4年生) 8-10歳	(5,6年生) 10-12歳	1,2年生 12-14歳	3年生 14-15歳+
W1 動物	◎	○				
W2 日記		◎	○			
W3 大切なもの		○	◎	○		
W4 遊び			◎	○	○	
W5 学校				◎	○	○
W6 日本の○○				○	◎	○
W7 メールと手紙					◎	○
W8 電子書籍と本						◎

◎印がテーマ選択の目安ですが、子どもに応じて○印のテーマを与えても構いません。

## 【テーマごとの課題例】

テーマ	課題例	*番号
動物	「好きな動物は何ですか。どんな動物ですか。知っていることをたくさん書いてください。まず絵を描いてもいいですよ。」	W1
日記	「楽しかった日を教えてください。何をしましたか。見たこと、聞いたこともたくさん書いてください。」	W2
大切なもの	「大切なものは何ですか。どうして大切ですか。たくさん書いてください。」	W3
遊び	「遊びを一つ選んでください。小さい子にやり方を教えましょう。わかりやすく書いてください。」	W4
学校	『あなたの学校について紹介してください。今の学校でも、前の学校でもいいです。(400字以内・30分)』	W5
日本の〇〇	『日本と外国を比べて違うところを説明してください。テーマ(〇〇)は自由に決めてください。(400字以内・30分)』	W6
メールと手紙	『気持ちを伝えるのにメールと手紙、どちらがいいと思うか、500字以内であなたの考えを書きなさい。(30分)』	W7
電子書籍と本	『携帯で読める本(電子書籍)があれば、紙の本はいらないという意見についてどう思うか。理由とともに600字以内で述べよ。(30分)』	W8

- 実施時間は子どもによって異なりますが、指示する目安としては低学年では10分～20分、中学年では20分～30分としてください。書いた後の対話時間を確保するため、終了の時間を指示してください。

## (6) 実施手順

### ①書く前に

#### 意欲・経験

- ・まずはじめに、意欲や作文を書いた経験について聞き、なるべくたくさん書くように励まします。母語で書いた経験についてもききましょう。

#### 課題・用紙

- ・課題の選択と確認、用紙の選択と使い方の確認を行います。課題や作文用紙を選ばせることで、書く意欲を高めることをねらっています。
- ・低・中学年では、口頭で課題を与えます。まず「テーマ」を与え、何を書くか話し合ってから書くことを決めます。
- ・例えば、1年生で「動物」というテーマを与える場合、実践ガイドでは「好きな動物は何ですか」という問いかけから始まっていますが、好きな動物がなければ、「学校にいる動物は何ですか」のように質問を変えてみるといいでしょう。「好きな」という言葉から自分の好きなもの（車など）について話し始める子がいたら、そのままそれをテーマとしてもかまいません。喜んで書くものをテーマとしてください。
- ・2年生に「日記」というテーマを与える場合も、「昨日何をしましたか」や「日曜日に何をしましたか」というような問いかけが可能です。子どもが書けそうだと思うような課題設定をしてください。
- ・ただし、何を書くかが明確になっていないと正確な測定ができませんので、課題がわかったかどうか、これから何を書くのかについて、書き始める前に確認してください。
- ・質問があれば、その子の年齢・認知レベルに合わせてわかりやすく説明してください。
- ・高学年・中学生には主にプリントで課題を与えて選ばせ、原稿用紙に書かせます。

### ②書きましょう

- ・「書きましょう」では、二通りのやり方があります。
  - (1) 自力で取り組める場合には、取り組む姿勢を観察し、質問などがあれば答えます。書く前に絵を描いたりメモを作ったりしたか、詰まった時にどうしたかなど、書く作業を観察することで、伸ばすためのヒントにつながります。
  - (2) 書き始めるのに支援が必要な子どもの場合には、まず、書く内容を引き出す対話を行い、書きへの誘導・励ましを与えます。必要に応じて、絵を書かせる・手近な資料を参照させるなどの補助手段を用いても良いでしょう。どのような支援があれば書けるのかということが見えてきます。

### ③書いた後で

#### 内容について

- ・まず、書いた内容について話させます。情報の足りないところについては質問し、追加情報を引き出します。特に、少ししか書けなかった場合には、関連する質問をしてたくさん話させましょう。この時、子どもから出てきた答えを、実施者が文の形で繰り返して、より適切な表現や文法構造をさりげなく示します。**★その場で書かせる必要はありません。**
- ・まとまった内容の文(章)を書く経験、話す経験を重視し、**★文字や文法の間違いをその場で直すことはしません。**

#### 取り組みに対する評価

- ・姿勢や取り組みについての対話を行い、やろうとしたこと、できたことに対して肯定的な評価を与えます。子ども自身が、できたことを確認し、達成感を持つことが大切です。

#### 振り返り

- ・書くという課題を達成できたことを確認して終わります。

## (7) 実施上の留意点

＜課題の選択について＞

- ・74-75ページに、年齢枠別作文テーマおよびテーマごとの課題例を一覧表にして示しました。テーマの選び方、課題の与え方によって、測りたい力がしぼられます。測りたい力の上限は児童生徒の年齢によって異なります。また、学習の進み具合によっても測りたい力が異なりますので、子どもにあった適切な課題を選ぶことが大切です。  
79ページの表「評価の観点と年齢枠一覧」もあわせてご参照ください。
- ・課題例W1～W8には、それぞれ対応する「実践ガイド」と「診断シート」がありますので、選んだ課題に合わせてお使いください。
- ・低学年・中学年の子どもには無理のない課題を与えるようにし、高学年以上の子どもには、課題を二つ示して本人に選ばせるのが望ましいと思われます。

＜書く前の対話について＞

- ・書く前の対話の際に書くことを先生が先回りして言ってしまうたり、口述しながら書き取らせたりすると、子どもの作文力を測ることはなりません。対話は、あくまでも子どもから「引き出す」ための問いかけ・促しの形で行います。
- ・考える力を伸ばすためには考える経験が必要です。具体的な質問を重ねることで、考えさせ、子どもの中から答えを引き出すように心がけましょう。

＜書いた後の対話について＞

- ・書いたことや書きたかったことを振り返ることが目的なので、その場で書き直させることはしません。質問し情報を引き出すことで、より詳しく書くにはどうすればよかったのか、どう書けばわかりやすかったのかなどに自然に気付くことができるようにします。

＜ほめて終わる＞

- ・DLA〈書く〉では、対話を通して児童生徒の最高のパフォーマンスを引き出します。子どもに自信や達成感を持たせるために、書く姿勢についての対話でも書いた内容についての対話でも、ほめるところをたくさん見つけてほめましょう。
- ・先生がじっくり向き合ってくれることだけでも、子どもにとっての達成感は大きいものです。子どもの「できること」をたくさん発見する気構えで臨んで下さい。

### 備考

- ・DLA〈書く〉では、子どもの書き行動の観察を大切にし、いつでも支援ができるように、実施者はそばについていることが理想ですが、支援なしに書けるレベルの子どもが対象の場合には、10分～30分の間、完全に密着している必要はありません。しかし、支援を求められたときには対応ができるようにしてください。
- ・自由度を上げることで書く意欲が高まるようであれば、「〇〇について書きましょう」のようにテーマだけを与えて、書けそうな内容を自由に探させることもできます。また、子どもの学習状況に合わせて同じような課題を設定していただいても結構です。この場合、実践ガイドの発問例をそのまま使う必要はありませんので、課題に合わせて調整してください。

## （8）評価の方法

- ・DLA〈書く〉が終了したら、採点・評価にうつります。

### 用意するもの

- ・DLA〈書く〉の採点・評価には以下のものを使用します。
  - ・子どもの書いた作文
  - ・課題に対応したDLA〈書く〉診断シート
  - ・JSL評価参照枠「書く」

### 診断シートの評価項目とJSL評価参照枠との関係

- ・診断シートには、課題と年齢枠に応じた評価項目が記載されています。
- ・DLA〈書く〉のJSL評価参照枠と診断シートの評価項目および年齢枠の対応関係を、次ページの「評価の観点と年齢枠一覧」に示します。

### 評価手順

- ・子どもの作文を見ながら、課題に対応する診断シートに示された評価項目について5点（とてもよい）、3点（ふつう）、1点（もう少し）で採点します。4点、2点をつけてもかまいません。
- ・総合得点を出し、項目数で割って平均点を算出します。
- ・診断シートの評価をJSL評価参照枠「書く」（p104）と照らし合わせ、また、ふだんの学習活動の様子もふまえて、総合的にステージを判定します。
- ・備考欄には母語の状況（家で使用、話せるが書けない、書ける、書く練習をしている、など）を記入しておきましょう。

### 備考

- ・カタカナ語の表記に関する項目が入っていますが、題材によってはカタカナを使わずに書く場合があります。その場合には採点項目から外してかまいません。平均点を出す際も、分母を減らしてください。
- ・まだ漢字の指導が始まっていないことがわかっている場合、診断シート「漢字使用」の項目について採点対象から外してかまいません。平均点を出す場合も分母の数を1つ減らしてください。

### 【評価の観点と年齢枠 一覧】

参照枠 〈書く〉	年齢枠 診断シートの評価項目	6-7歳 (1年生)	7-8歳 (2年生)	8-10歳 (中学年)	10-15+ 歳 (高学年 中学生)
		内容	作文の長さ（文字数）	/	○
	内容の豊かさ（情報の豊かさ，独創性，気持ち，意見など）	○	○	○	○
	表現の工夫（書き出し，会話文，擬態語/擬音語，比喩，副詞，結びなど）	/	○	○	○
構成	全体のまとめ	/	/	○	○
	段落	/	/	○	○
	文と文のつながり	/	○	○	○
文の質・ 正確度	文の複雑さ（複文，従属節など）	/	/	○	○
	文の正確度（語順や活用など）	/	○	○	○
	文末の統一（常体とです・ます体を混ぜずに書く）	/	○	○	○
語彙・ 漢字力	語彙の多様性	○	○	○	○
	語彙の適切性（テーマに合った語彙が使える）	/	/	○	○
	漢字語彙の使用（年齢枠相応の漢字や漢字語彙が使える）	/	○	○	○
書字力・ 表記ルール	ひらがな（特殊音節を含む）	○	○	○	○
	カタカナ語	○	○	○	○
	表記ルール（句読点，一字下げ，縦書き/横書き，「」など）	/	○	○	○
	送り仮名	/	○	○	○
書く態度	意欲と取り組み方（積極的に取り組める，自力で取り組める～支援を得て取り組める）	○	○	○	○
	書く前の準備（絵，メモなど）	○	○	○	○
	書いた後（読み返したり修正したりしようとする）	/	/	○	○

## 書くまえに...

### ① 書くことに対する意欲や経験について聞く。



書くのは好きですか。  
 ○○語(母語)でも書いたことがありますか。  
 今日は日本語でたくさん書きましょう。いいですか。がんばりましょう。

- ・好き/嫌いの理由やどんなものを書いたかなど、自然な流れでやりとりをし、リラックスして書くことに取り組めるようにする。

### ② 課題について話し合う。



今日は、「動物」について作文を書きましょう。  
 好きな動物はなんですか。どうして好きか教えてください。

- ・特に好きな動物がなければ、(1) 学校にいる動物・触ったことのある動物  
 (2) 好きな食べ物・好きな車などに変えても良い。



好きな○○のことを書きましょう。たくさん書いてください。いいですか。

### ③ 用紙の選択・用紙の使い方がわかっているかどうか確認する。



まず、紙を選びましょう。どの紙に書きますか。

- ・巻末資料の用紙から2, 3枚示して選ばせる。



どこに名前を書きますか。どこから書き始めますか。

- ・選んだ用紙の使い方を確認し、わからない場合は教える。



絵をかいてもいいですよ。

## 書きましょう...

### ① 書く様子を見守り、助けを求められたときはこたえる。

- ・なかなか書き出せないで困っている場合は、つぎのような対話(1または2)をして励ます。

(例) <1. 課題について詳しく話し合う>



○○が好きなんですね。○○はどんな動物ですか。何色ですか。大きいですか。  
 何をたべますか。どんなところにいますか。どこで見ましたか。

<誘導・はげまし>



○○のことを、良く知っていますね。それを書いてください。

<2. 子どもが描いた絵を手がかりにして話し合う>



先に絵を描いてみましょうか。  
 (絵について) これは何をしているところですか。これは何ですか。

<誘導・はげまし>



じゃあ今度は字を書いてみましょう。がんばってください。



## 書いたあとで...

### ① 作文を提出させ、ねぎらう。

😊 がんばってたくさん書きましたね。  
では、見せてください。

### ② 書いた内容について話させる。

😊 では、書いたことを話してください。

- ・読み上げさせるのではなく子どもの頭の中に残っていることを話させる。  
しっかりとあいづちをうち、肯定的に聞く。  
わかりにくい点、情報不足と思われるところについて質問し追加情報を引き出す。  
特に少ししか書けなかった場合はなるべくたくさん話させる。(★書き直させる必要はない)

### ③ 書いたときの姿勢や取り組み方について質問する。

😊 書くとき、一番考えたのはどこですか。  
この作文の面白いところはどこですか。

- ・何も出なかったら→「×××というところが面白いと思いました。」のようにコメントする。

### ④ 振り返りを行う。

😊 よくがんばりましたね。〇〇さんは△△が好きなんですね。  
とても上手に書けました。話も上手でした。良かったです。  
これで終わりです。

- ・子どもが達成感を持って終われるようにほめる。

😊 書くのは大変でしたか？楽しかったですか？

😊 今日の作文、とても上手でしたね。これからもたくさん書きましょね。

#### メモ:

この課題は、書くことに慣れていない子どもを想定している。絵を手掛かりに書く内容をいっしょに探し、文字にしていく活動が主となる。この時、書くことを先回りして言ってしまうと、子どもの口から出たことを受け止め、書くことがまとまるように仕向けるとよい。  
1年生が対象の場合、時間設定の必要性は低いが、DLA〈話す〉や〈読む〉とセットで実施する場合など、書いたあとの対話時間が確保できるように配慮する。

書くまえに...

① 書くことに対する意欲や経験について聞く。



書くのは好きですか。  
 ○○語(母語)でも書いたことがありますか。  
 今日は日本語でたくさん書きましょう。いいですか。がんばりましょう。

・好き/嫌いの理由やどんなものを書いたかなど、自然な流れでやりとりをし、リラックスして書くことに取り組めるようにする。

② 課題について話し合い、わかったかどうかを確認する。



日記を書いたことがありますか。

・「日記を書いたことがある」と答えた子には「毎日書きますか」と聞く。



「楽しかった日」のことを教えてください。何をしましたか。  
 見たこと、聞いたこともたくさん書いてください。いいですか。

③ 用紙の選択・用紙の使い方がわかっているかどうか確認する。



紙を選びましょう。どの紙に書きますか。

・巻末資料の用紙から2, 3枚示して選ばせる。



どこに名前を書きますか。どこから書き始めますか。はじめに絵を描いてもいいですよ。

・選んだ用紙の使い方を確認し、わからない場合は教える。

書きましょう...

① 書く様子を見守り、助けを求められたときはこたえる。

・なかなか書き出せないで困っている場合は、つぎのような対話(1または2)をして励ます。

(例) < 1. 課題について詳しく話し合う >



何をしましたか。どこでしましたか。だれとしましたか。楽しかったですか  
 そこで、何をみましたか。どうでしたか。  
 だれが、何と言いましたか。

< 誘導・はげまし >



書くことがたくさん見つかりましたね。それを書いてください。

< 2. 子どもが描いた絵を手がかりにして話し合う >



先に絵を描いてみましょう。  
 (絵について) これは何をしているところですか。これは何ですか。

< 誘導・はげまし >



じゃあ今度は文を書いてみましょう。がんばってください。

## 書いたあとで ...

### ① 作文を提出させ、ねぎらう。



がんばってたくさん書きましたね。  
では、見せてください。

### ② 書いた内容について話させる。



では、書いたことを話してください。

- ・読み上げさせるのではなく子どもの頭の中に残っていることを話させる。  
しっかりとあいづちをうち、肯定的に聞く。  
わかりにくい点、情報不足と思われるところについて質問し追加情報を引き出す。  
また、関連質問をして話題を膨らませる。★書き直させる必要はない。

### ③ 書く姿勢・取り組みについて質問する。



書くとき、一番考えたのはどこですか。  
この作文の面白いところはどこですか。

- ・しっかりとあいづちを打って聞き、肯定的に聞く。工夫した点をほめる。

### ④ 振り返りを行う。



よくがんばりましたね。「楽しかった日」のことがよくわかりました。  
とても上手に書けました。話も上手でした。良かったです。  
これでおわりです。

- ・子どもが達成感を持って終われるようにほめる。  
「～というところが特に面白かったです。」等、具体的にほめるとよい。



書くのは大変でしたか？楽しかったですか？



今日の作文、とても上手でしたね。これからもたくさん書きましょね。

#### メモ:

日記を書く習慣のある子、日記の指導を受けている子にとっては、単なる日記だと日常的な課題になってしまうので、「明日したいこと」を書くように仕向けてもよい。  
低学年を対象に行う場合、時間設定の必要性は低い。DLA〈話す〉や〈読む〉とセットで実施する場合など、書いたあとの対話時間が確保できるよう配慮する。

## 書くまえに...

### ① 書くことに対する意欲や経験について聞く。



書くのは好きですか。○○語(母語)でも書いたことがありますか。  
今日は日本語でたくさん書きましょう。いいですか。がんばりましょう。

- ・好き/嫌いの理由やどんなものを書いたかなど、自然な流れでやりとりをし、リラックスして書くことに取り組めるようにする。

### ② 課題について話し合い、わかったかどうか確認する。



大切なものは何ですか。どうして大切ですか。教えてください。

- ・聞きながら、「そうですか。いいですね。」など、相槌をうち、興味を示す。



では、今から、○○さんの大切なものについて書きましょう。  
たくさん書いてください。いいですか。

### ③ 用紙の選択・用紙の使い方がわかっているかどうか確認する。



まず紙を選びましょう。どの紙に書きますか。

- ・巻末資料の用紙から2, 3枚示して選ばせる。



どこに名前を書きますか。どこから書き始めますか。  
はじめに絵を描いてもいいですよ。

- ・選んだ用紙の使い方を確認し、わからない場合は教える。

### ④ 時間の指示(目安は20分)



それでは書いてください。時間は□□までです。いいですか。

## 書きましょう...

### ① 書く様子を見守り、助けを求められたときはこたえる。

- ・なかなか書き出せないで困っている場合は、声かけ(1または2)をしてはげます。

(例) < 1. 課題について詳しく話し合う >



○○さんの大切なものは○○なんですね。

- ・「どうして大切ですか。」など、関連する質問をして答えを引き出す。

< 誘導・はげまし >



大切なものを友達にわかるように、書きましょう。

< 2. 子どもが描いた絵を手がかりにして話し合う >



先に絵を描いてみましょうか。  
(絵について) これは何ですか。どんな～ですか。

< 誘導・はげまし >



なるほど、じゃあ今度は文を書いてみましょう。がんばってください。

## 書いたあとで ...

### ① 作文を提出させ、ねぎらう。



がんばってたくさん書きましたね。  
では、見せてください。

### ② 書いた内容について話させる。



では、書いたことを話してください。

- ・読み上げさせるのではなく子どもの頭の中に残っていることを話させる。  
しっかりとあいづちをうち、肯定的に聞く。  
わかりにくい点、情報不足と思われるところについて質問し追加情報を引き出す。  
また、関連質問をして話題を膨らませる。★書き直させる必要はない。

### ③ 書く姿勢・取り組みについて質問する。



書くとき、一番考えたのはどこですか。  
この作文の面白いところはどこですか。

- ・しっかりとあいづちを打って聞き、肯定的に聞く。工夫した点をほめる。

### ④ 振り返りを行う。



よくがんばりましたね。〇〇さんの大切なものがよくわかりました。  
とても上手に書けました。話も上手でした。良かったです。  
これで終わりです。

- ・子どもが達成感を持って終われるようにほめる。  
「～というところが特に面白かったです。」等、具体的にほめるとよい。



書くのは大変でしたか？楽しかったですか？



今日の作文、とても上手でしたね。これからもたくさん書きましようね。

#### メモ:

この課題は「理由を書く」ことに焦点がある。大切な理由がしっかり書けるように声掛けをし、子どもから答えを引き出す。また、それがどんなものなのか詳しく描写できるよう、大きさや色、形など、具体的な質問を重ね、説明のしかたを考えさせる。

## 書くまえに...

### ① 書くことに対する意欲や経験について聞く。

😊 書くのは好きですか。○○語(母語)でも書いたことがありますか。今日は日本語でたくさん書きましょう。いいですか。がんばりましょう。

- ・好き/嫌いの理由やどんなものを書いたかなど、自然な流れでやりとりをし、リラックスして書くことに取り組めるようにする。

### ② 課題について話し合い、わかったかどうか確認する。

😊 遊びを一つ選んでください。小さい子にやり方を教えます。どんな遊びですか。

- ・質問して具体的な答えをたくさん引き出す。

### ③ 用紙の選択・用紙の使い方がわかっているかどうか確認する。

😊 では、今から、○○のやり方を書きましょう。小さい子によくわかるように、わかりやすく書いてください。いいですか。

😊 まず紙を選びましょう。どの紙に書きますか。

- ・巻末資料から2, 3枚示して選ばせる。

😊 どこに名前を書きますか。どこから書き始めますか。はじめに絵を描いてもいいですよ。

- ・選んだ用紙の使い方を確認し、わからない場合は教える。

### ④ 時間の指示（目安は20分）

😊 では、書いてください。時間は□□までです。いいですか。

## 書きましょう...

### ① 書く様子を見守り、助けを求められたときはこたえる。

- ・なかなか書き出せないで困っている場合は、声かけ(1または2)をしてはげます。

(例) < 1. 課題について詳しく話し合う >

😊 一年生にやりかたを教えましょう。まず何をしますか。それから何をしますか。難しいのは何ですか。面白いところはどこですか。

< 誘導・はげまし >

😊 今の話を書きましょう。わかりやすく書いてください。

< 2. 絵を手がかりにして話し合う >

😊 先に絵を描いてみましょうか。  
(絵について) これは何をしているところですか。これはなんですか。

< 誘導・はげまし >

😊 じゃあ今度は文を書いてみましょう。がんばってください。

## 書いたあとで ...

### ① 作文を提出させ、ねぎらう。



がんばってたくさん書きましたね。  
では、見せてください。

### ② 書いた内容について話させる。



では、書いたことを話してください。

- ・読み上げさせるのではなく子どもの頭の中に残っていることを話させる。  
しっかりとあいづちをうち、肯定的に聞く。  
わかりにくい点、情報不足と思われるところについて質問し追加情報を引き出す。  
★書き直させる必要はない。

### ③ 書く姿勢・取り組みについて質問する。



書くとき、一番考えたのはどこですか。  
この作文の面白いところはどこですか。

- ・しっかりとあいづちを打って聞き、肯定的に聞く。工夫した点をほめる

### ④ 振り返りを行う。



よくがんばりましたね。遊び方がよくわかりました。  
とても上手に書けました。話も上手でした。良かったです。  
これでおわりです。

- ・子どもが達成感を持って終われるようにほめる。  
「～というところが特に面白かったです。」等、具体的にほめるとよい。



書くのは大変でしたか？楽しかったですか？



今日の作文、とても上手でしたね。これからもたくさん書きましょね。

#### メモ:

この課題は「手順の説明」に焦点がある。読めばやり方がわかるように書けるかがポイントである。自分がよく知っていることを説明するのは意外に難しいので、順番を意識させるような質問をし、子どもから答えを引き出す。説明できそうな遊びの名前が挙がらなかったら、「じゃんけん(日本式でも外国式でもよい)」のやりかたを説明させてもよい。

## 書くまえに...

### ① 書くことに対する意欲や経験について聞く。

😊 書くのは好きですか。○○語(母語)でも書いたことがありますか。今日は日本語でたくさん書きましょう。いいですか。がんばりましょう。

- ・好き/嫌いの理由やどんなものを書くかなど、自然な流れでやりとりをし、リラックスして書くことに取り組めるようにする。

### ② 課題の紙を見せて、わかったかどうか確認する。

😊 問題を見てください。何を書くかわかりましたか。

- ・質問があれば答える。

### ③ 原稿用紙の使い方がわかっているかどうか確認し、書く前のメモを勧める。

😊 では、学校紹介を書いてください。原稿用紙1枚に書いてください。時間は□□までです。いいですか。

- ・原稿用紙の使い方がわからない場合は教える。

😊 どこに名前を書きますか。どこから書き始めますか。

😊 書き始める前に書くことをメモするといいですよ。このメモ用紙を使ってください。絵を描いてもかまいません。

## 書きましょう...

### ① 書く様子を見守り、助けを求められたときはこたえる。

- ・なかなか書き出せないで困っている場合は、声かけをしてはげます。

(例) <課題について詳しく話し合う>

😊 では、まず書くことのメモを作りましょう。どの学校について書きますか。学校では、どんなことをしますか。…それから何がありますか。

- ・まず、作文を書いたことのある行事などについて思い出させたり、毎日の日課のことなど、思いつくものを挙げていって、メモさせる。
- ・次に、その中から何を書くか、どんな順番で書くかなど、構成を考えさせる。

😊 一番はじめに何を書いたらいいと思いますか。この学校のいいところは何だと思いますか。他に書きたいことがありますか。順番はいいですか。最後はどう書くか考えましたか。

<誘導・はげまし>

😊 書く順番が決まったら、どうぞ書いてください。

- ・言葉がわからなかったり、表現で困って質問してきたときは答える。
- ・内容について相談してきたときは、答えを与えるのではなく、「一番知らせたいことは何ですか」「読んだ人が面白いと思うことは何ですか」などの声かけで答えを引き出す。



## 書いたあとで ...

### ① 作文を提出させ、ねぎらう。



がんばってたくさん書きましたね。  
では、見せてください。

### ② 書いた内容について話させる。



では、書いたことを話してください。

- ・読み上げさせるのではなく子どもの頭の中に残っていることを話させる。  
しっかりとあいづちをうち、肯定的に聞く。  
わかりにくい点、情報不足と思われるところについて質問し追加情報を引き出す。  
★書き直させる必要はない。

### ③ 書く姿勢・取り組みについて質問する。



書くとき、一番考えたのはどこですか。  
読んだ人が一番面白いと思うのはどこだと思いますか。  
読んだ人は、この学校のことをどう思うと思いますか。

- ・しっかりとあいづちを打って聞き、肯定的に聞く。工夫した点をほめる。

### ④ 振り返りを行う。



よくがんばりましたね。これを読んだら学校のことがよくわかるでしょう。  
とても上手に書けました。  
これで終わりです。

- ・子どもが達成感を持って終われるようにほめる。  
「～というところが特に面白かったです。」等、具体的にほめるとよい。  
対話でたくさん話せた場合は、「話も上手でした。」のようにほめるとよい。



書くのは大変でしたか？楽しかったですか？



今日の作文、とても上手でしたね。これからもたくさん書きましようね。

### メモ:

この課題は持っている情報を整理して必要なことを抜き出し、構成を考えて書くことが要求される。いっしょにメモを作ったり、書くことを選んで構成を考えるなどの段階を踏んで書けるとよい。また、書いた後の対話で、読み手を意識したり、よりわかりやすい伝え方を考えたりといった点を、次回以降の課題として意識させる。

## 書くまえに...

### ① 書くことに対する意欲や経験について聞く。



書くのは好きですか。〇〇語(母語)でも書いたことがありますか。  
今日は日本語でたくさん書きましょう。いいですか。がんばりましょう。

- ・好き/嫌いの理由やどんなものをどれくらい書いたかなど、自然な流れでやりとりをし、リラックスして書くことに取り組めるようにする。

### ② 課題を二つ(「学校紹介」「日本の〇〇」)提示して、子どもに選ばせる。



どちらを書きますか。好きな方を選んでください。

- ・質問があれば答える。(外の国とはどこかと聞かれたら、子どもに応じて適宜設定して応える。母国での学習経験がある子どもに対しては子どもの母国を答えとしてよい。)
- ・「学校紹介」→p88-89へ 「日本の〇〇」→以下へ続く

### ③ 課題文を読ませ、書くことがわかったかどうか確認する。



書くことがわかりましたか。  
では書いてください。時間は□□までです。いいですか。

### ④ 原稿用紙の使い方を確認し、書く前にメモを作ることを勧める。



どこに名前を書きますか。どこから書き始めますか。  
書き始める前に書くことをメモするといいですよ。このメモ用紙を使ってください。

- ・原稿用紙の使い方がわからない場合は教える。

## 書きましょう...

### ① 書く様子を見守り、助けを求められたときはこたえる。

- ・なかなか書き出せないで困っている場合は、声かけをしてはげます。

(例) <課題について詳しく話し合う>



ではまず書くことのメモを作りましょう。  
日本の何について書きますか。  
日本の〇〇と外国(〇〇)の〇〇で、違うのはどこでしょうか。

- ・何も出てこなければ、「(トピックに学校を選んだ場合は)教室の様子は? 一番面白い行事は?」など、手がかりを与えて考えさせる。
- ・次に、その中から何を書くか、どんな順番で書くかなど、構成を考えさせる。



一番はじめに何を書きますか。  
それから、何を書きますか。  
他に書きたいことがありますか。順番はいいですか。  
最後はどう書くか考えましたか。

<誘導・はげまし>



書く順番が決まったら、どうぞ書いてください。

- ・言葉がわからなかったり、表現で困って質問してきたときは答える。
- ・内容について相談してきたときは、答えを与えるのではなく、「一番知らせたいことは何ですか」「面白いところは何ですか」などの声かけを繰り返して答えを引き出す。

## 書いたあとで ...

### ① 作文を提出させ、ねぎらう。

😊 がんばってたくさん書きましたね。  
では、見せてください。

### ② 書いた内容について話させる。

😊 では、書いたことを話してください。

- ・読み上げさせるのではなく子どもの頭の中に残っていることを話させる。  
しっかりとあいづちをうち、肯定的に聞く。  
わかりにくい点、情報不足と思われるところについて質問し追加情報を引き出す。  
★書き直させる必要はない。

### ③ 書く姿勢・取り組みについて質問する。

😊 書くとき、一番考えたのはどこですか。  
読んだ人が一番面白いと思うのはどこだと思いますか。  
読んだ人は、日本の○○のことをどう思うと思いますか。

- ・しっかりとあいづちを打って聞き、肯定的に聞く。工夫した点をほめる

😊 書いた後で読み返しましたか。

### ④ 振り返りを行う。

😊 よくがんばりました。これを読んだら日本の○○のことや、○○との違いがよくわかります。  
とても上手に書けました。良かったです。  
これでおわりです。

- ・子どもが達成感を持って終われるようにほめる。  
「～というところが特に面白かったです。」等、具体的にほめるとよい。  
対話でたくさん話せた場合は「話も上手でした。」のようにほめるとよい。

😊 書くのは大変でしたか？楽しかったですか？

😊 今日の作文、とても上手でしたね。これからもたくさん書きましょね。

#### メモ:

「学校紹介」と同じく、情報を整理して必要なことを抜き出し、順序や構成を考えて書くことが要求される。母国で学校に行ったことがある子どもの場合には、学校の比較にぜひ取り組ませたい。無論、学校以外のトピックでもかまわない。  
日本生まれの子どもの場合は、人から聞いたことや本で読んだことなどの比較でよい。

## 書くまえに...

### ① 書くことに対する意欲や経験について聞く。



書くのは好きですか。〇〇語(母語)でも書きますか。  
今日は日本語でたくさん書きましょう。いいですか。がんばりましょう。

- ・好き/嫌いの理由やどんなものを書くかなど、自然な流れでやりとりをし、リラックスして書くことに取り組めるようにする。

### ② 課題を二つ(「日本の〇〇」「メールと手紙」)提示し、子どもに選ばせる。



どちらを書きますか。好きな方を選んでください。

- ・質問があれば答える。
- ・「日本の〇〇」→p90-91へ 「メールと手紙」→以下へ続く

### ③ 課題文を読ませ、書くことがわかったかどうか確認する。



書くことがわかりましたか。  
ではどうぞあなたの考えを書いてください。時間は□□までです。いいですか。

### ④ 原稿用紙の使い方を確認し、書く前にメモを作ることを勧める。



どこに名前を書きますか。どこから書き始めますか。  
書き始める前に書くことをメモするといいですよ。このメモ用紙を使ってください。

- ・原稿用紙の使い方がわからない場合は教える。

## 書きましょう...

### ① 書く様子を見守り、助けを求められたときはこたえる。

- ・なかなか書き出せないで困っている場合は、声かけをしてはげます。

(例) <課題について詳しく話し合う>



では、まず書くことのメモを作りましょう。  
どんな時に手紙を書きますか。どんな時にメールを書きますか。  
どんな手紙(メール)をもらおうと嬉しいですか。

- ・その他、手紙を書かなければならない状況(例:けんかの後あやまるなど)を設定するなど、考える手がかりを適宜与えて考えさせる。
- ・次に、その中から何を書くか、どんな順番で書くかなど、構成を考えさせる。



一番はじめに何を書きますか。それから、何を書きますか。  
他に書きたいことがありますか。順番はいいですか。  
最後はどう書くか考えましたか。

<誘導・はげまし>



書く順番が決まったら、どうぞ書いてください。

- ・言葉がわからなかったり、表現で困って質問してきたときは答える。
- ・内容について相談してきたときは、「〇〇さんの考えを書いてください」「その考えはいいと思いますよ」などの声かけをして励ます。

## 書いたあとで ...

### ① 作文を提出させ、ねぎらう。



がんばりましたね。  
では、見せてください。

### ② 書いた内容について話させる。



では、書いたことを話してください。

- ・読み上げさせるのではなく子どもの頭の中に残っていることを話させる。  
しっかりとあいづちをうち、肯定的に聞く。  
わかりにくい点、情報不足と思われるところについて質問し追加情報を引き出す。  
★書き直させる必要はない。

### ③ 書く姿勢・取り組みについて質問する。



書くとき、一番考えたのはどこですか。  
ほかの人は、どう考えると思いますか。  
違う意見の人がいたら、どうしますか。

- ・しっかりとあいづちを打って聞き、肯定的に聞く。工夫した点をほめる。



最後のまとめはうまく書けましたか。  
工夫したところがありますか。

- ・このような観点で自分の作文を振り返らせる。



書いた後で読み返しましたか。

### ④ 振り返りを行う。



よくがんばりました。  
とても上手に書けました。良かったです。  
これでおわりです。

- ・子どもが達成感を持って終われるようにほめる。  
「～というところが特にいいですね。」等、具体的にほめるとよい。  
対話でたくさん話せた場合には、「最後に意見がしっかり言えましたね。」のようにほめる。

#### メモ:

「意見・考え」を述べる課題。正解があるわけではないので、なぜそう考えるのかについて上手に伝えられるように、また、違う意見もあることを考えに入れて書くように誘導する。

## 書くまえに...

### ① 書くことに対する意欲や経験について聞く。

😊 書くのは好きですか。〇〇語(母語)でも書きますか。  
今日は日本語でたくさん書きましょう。いいですか。がんばりましょう。

- ・好き/嫌いの理由やどんなものを書くかなど、自然な流れでやりとりをし、リラックスして書くことに取り組めるようにする。

### ② 課題を二つ(「メールと手紙」「電子書籍～」)提示し、子どもに選ばせる。

😊 どちらを書きますか。好きな方を選んでください。

- ・「メールと手紙」を選んだ場合 → p92-93へ
- ・「電子書籍と本」を選んだ場合 → 以下へ続く

### ③ 課題文を読ませ、書くことがわかったかどうか確認する。

😊 書くことがわかりましたか。

- ・「電子書籍」がわからなかったら説明する。

### ④ 原稿用紙の使い方を確認し、書く前にメモを作ることを勧める。

😊 どこに名前を書きますか。どこから書き始めますか。  
書き始める前に書くことをメモするといいですよ。このメモ用紙を使ってください。

- ・原稿用紙の使い方がわからない場合は教える。

## 書きましょう...

### ① 書く様子を見守り、助けを求められたときはこたえる。

- ・なかなか書き出せないで困っている場合は、声かけをしてはげます。

(例) <課題について詳しく話し合う>

😊 では、まず書くことのメモを作りましょう。  
〇〇さんは、電子書籍があれば本はいらないという意見に賛成ですか、反対ですか。  
どうしてですか。電子書籍の良い点は何でしょう。本の方が良い点がありますか。

- ・携帯小説などを読んだことがあるかどうか聞くのもよい。出てきた答えに「いいですね」などのあいづちを打って興味を示し、たくさん話させるとよい。
- ・次に、その中から何を書くか、どんな順番で書くかなど、構成を考えさせる。

😊 一番はじめに何を書きますか。  
それから、何を書きますか。  
他に書きたいことがありますか。順番はいいですか。  
最後はどう書くか考えましたか。

<誘導・はげまし>

😊 書く順番が決まったら、どうぞ書いてください。

- ・言葉がわからなかったり、表現で困って質問してきたときは答える。
- ・内容について相談してきたときは、「〇〇さんの考えを書いてください」「その考えはいいと思いますよ」などの声かけをして励ます。

## 書いたあとで ...

### ① 作文を提出させ、ねぎらう。



がんばって書きましたね。  
では、見せてください。

### ② 書いた内容について話させる。



では、書いたことを話してください。

- ・読み上げさせるのではなく子どもの頭の中に残っていることを話させる。  
しっかりとあいづちをうち、肯定的に聞く。  
わかりにくい点、情報不足と思われるところについて質問し追加情報を引き出す。  
★書き直させる必要はない。

### ③ 書く姿勢・取り組みについて質問する。



書くとき、一番考えたのはどこですか。  
この作文のいいところはどこですか。どうしてそう思いますか。  
これを読んだら本を書く人はどう思うでしょうね。

- ・しっかりとあいづちを打って聞き、肯定的に聞く。工夫した点をほめる。



工夫したところはどこですか。  
最後のまとめはうまく書けましたか。

- ・表現の工夫や構成といった観点で自分の作文を振り返らせる。



書いた後で読み返しましたか。

- ・「読み返した。」と答えた場合は「それはいいですね。」と言うなど、推敲につながるよう読み返す習慣づけを促す。

### ④ 振り返りを行う。



よくがんばりました。  
これでおわりです。

- ・子どもが達成感を持って終われるようにほめる。  
「意見や理由がしっかり書け（言え）ましたね。」 「～というところが特にいいですね。」  
等、具体的にほめるとよい。

#### メモ:

課題は「根拠を示して意見を述べる」とこと、「適切な文体が選べる」とことの二つである。  
課題文の文体を参考に同様の書き言葉らしい文体を選び、「～だ。」や「～である。」という  
文体が使えていれば特にとりあげてほめる。「です・ます体」で書いた場合も減点にはならない  
ので、その場合は文体には触れず、内容に集中して対話をする。

名前： \_\_\_\_\_ (男・女) 学年(所属)： \_\_\_\_\_ 年 月 日

字数： \_\_\_\_\_ 時間： \_\_\_\_\_ 分

- 子どもの作文を見て、あてはまる評価点（5・3・1）に○をつける。  
中間を選択し、2点、4点をつけてもよい。
- 評価基準■ 5：とてもよい 3：ふつう 1：もう少し

内容			
1	内容の豊かさ	くわしく書ける	5 3 1
語彙・漢字力			
2	語彙の多様性	いろいろな語彙を使って書ける	5 3 1
書字力・表記ルール			
3	ひらがな	拗音,促音,長音などが正しく書ける	5 3 1
4	カタカナ語	カタカナ語が書ける	5 3 1
書く態度			
5	意欲と取り組み方	積極的に取り組める	5 3 1
6	書く前の準備	絵を描いたり、書くことを考えたり相談したりしてから書き始める	5 3 1
総合評価			
備考（母語の状況）		総合得点	
		点	
		平均点	
		/6 ⇒ 点	

(注)カタカナ表記の必要な語が出てこない場合は、4は該当しないので、採点せず、平均点を出す際の分母もへらして計算してください。



名前： \_\_\_\_\_ (男・女) 学年(所属)： \_\_\_\_\_ 年 月 日

字数： \_\_\_\_\_ 時間： \_\_\_\_\_ 分

- 子どもの作文を見て、あてはまる評価点（5・3・1）に○をつける。  
中間を選択し、2点、4点をつけてもよい。
- 評価基準■ 5：とてもよい 3：ふつう 1：もう少し

内容			
1	内容の豊かさ	くわしく書ける	5 3 1
構成			
2	文と文のつながり	つながりがよい	5 3 1
文の質・正確度			
3	文の正確度	文が正しく書ける	5 3 1
4	文末の統一	常体とです・ます体を混ぜずに書ける	5 3 1
語彙・漢字力			
5	語彙の多様性	たくさんの語彙を使って書ける	5 3 1
6	漢字語彙の使用	漢字を使って書ける	5 3 1
書字力・表記ルール			
7	ひらがな	拗音,促音,長音などが正しく書ける	5 3 1
8	カタカナ語	カタカナ語が書ける	5 3 1
9	表記ルール	表記ルールを守って書ける	5 3 1
10	送り仮名	送り仮名が正しく書ける	5 3 1
書く態度			
11	意欲と取り組み方	積極的に取り組める	5 3 1
12	書く前の準備	絵を描いたり、書くことを考えたり相談したりしてから書き始める	5 3 1
総合評価			
備考（母語の状況）		総合得点	点
		平均点	点
		／12	点

(注)カタカナ表記の必要な語が出てこない場合は、8は該当しないので、採点せず、平均点を出す際の分母もへらして計算してください。送り仮名不要の場合も同様。

名前： \_\_\_\_\_ (男・女) 学年(所属)： \_\_\_\_\_ 年 月 日

字数： \_\_\_\_\_ 時間： \_\_\_\_\_ 分

- 子どもの作文を見て、あてはまる評価点（5・3・1）に○をつける。  
中間を選択し、2点、4点をつけてもよい。

■評価基準■ 5：とてもよい 3：ふつう 1：もう少し

内容			
1	内容の豊かさ	くわしく書ける	5 3 1
2	表現の工夫	順序や様子を表す表現が使える	5 3 1
構成			
3	文と文のつながり	つながりがよい	5 3 1
文の質・正確度			
4	文の複雑さ	「～て」、「～から」などを使って複文も書ける	5 3 1
5	文の正確度	文法的に正しい文が書ける	5 3 1
6	文末の統一	常体とです・ます体を混ぜずに書ける	5 3 1
語彙・漢字力			
7	語彙の多様性	たくさんの語彙を使って書ける	5 3 1
8	語彙の適切性	テーマに合った語彙が使える	5 3 1
9	漢字語彙の使用	漢字を使って書ける	5 3 1
書字力・表記ルール			
10	ひらがな	正しく書ける（特殊拍や助詞を含む）	5 3 1
11	カタカナ語	カタカナ語が書ける	5 3 1
12	表記ルール	表記ルールを守って書ける	5 3 1
13	送り仮名	送り仮名が正しく書ける	5 3 1
書く態度			
14	意欲と取り組み方	積極的に取り組める	5 3 1
15	書く前の準備	絵を描く、または内容を考えてから書き始める	5 3 1
総合評価			
備考（母語の状況）		総合得点	点
		平均点	点
		/ 15	点

(注)カタカナ表記の必要な語が出てこない場合は、11は該当しないので、採点せず、平均点を出す際の分母もへらして計算してください。送り仮名不要の場合も同様。

名前： \_\_\_\_\_ (男・女) 学年(所属)： \_\_\_\_\_ 年 月 日

字数： \_\_\_\_\_ 時間： \_\_\_\_\_ 分

- 子どもの作文を見て、あてはまる評価点（5・3・1）に○をつける。  
中間を選択し、2点、4点をつけてもよい。
- 評価基準■ 5：とてもよい 3：ふつう 1：もう少し

内容			
1	作文の長さ	内容に見合った量が書ける	5 3 1
2	内容の豊かさ	手順をわかりやすく書ける	5 3 1
3	表現の工夫	順序や様子を表す表現が使える	5 3 1
構成			
4	全体のまとめ	構成を考えて書ける	5 3 1
5	段落	段落が作れる	5 3 1
6	文と文のつながり	つながりが良い	5 3 1
文の質・正確度			
7	文の複雑さ	「～て」、「～から」などを使って複文も書ける	5 3 1
8	文の正確度	文法的に正しい文が書ける	5 3 1
9	文末の統一	常体とです・ます体を混ぜずに書ける	5 3 1
語彙・漢字力			
10	語彙の多様性	語彙が豊か	5 3 1
11	語彙の適切性	テーマに見合った適切な語彙を使って書ける	5 3 1
12	漢字語彙の使用	漢字語彙を使って書ける	5 3 1
書字力・表記ルール			
13	ひらがな	正しく書ける	5 3 1
14	カタカナ語	カタカナ語が正しく書ける	5 3 1
15	表記ルール	表記ルールを守って書ける	5 3 1
16	送り仮名	送り仮名が正しく書ける	5 3 1
書く態度			
17	意欲と取り組み方	積極的に自力で取り組める	5 3 1
18	書く前の準備	よく考えてから書き始める	5 3 1
19	書いた後	読み返して間違いに気付く	5 3 1
総合評価			
備考（母語の状況）		総合得点	点
		平均点	点
		/ 19 ⇒	点

名前： \_\_\_\_\_ (男・女) 学年(所属)： \_\_\_\_\_ 年 月 日

- 子どもの作文を見て、あてはまる評価点（5・3・1）に○をつける。  
中間を選択し、2点、4点をつけてもよい。

■評価基準■ 5：とてもよい 3：ふつう 1：もう少し

内容			
1	作文の長さ	課題に添った字数で書ける	5 3 1
2	内容の豊かさ	興味深い内容が書ける	5 3 1
3	表現の工夫	効果的な表現が使える	5 3 1
構成			
4	全体のまとめ	構成を考えて書ける	5 3 1
5	段落	段落が作れる	5 3 1
6	文と文のつながり	適切な接続詞が使える	5 3 1
文の質・正確度			
7	文の複雑さ	「～て」、「～から」などを使って複文も書ける	5 3 1
8	文の正確度	文法的に正しい文が書ける	5 3 1
9	文末の統一	です・ます体で統一して書ける	5 3 1
語彙・漢字力			
10	語彙の多様性	語彙が豊か	5 3 1
11	語彙の適切性	テーマに見合った適切な語彙を使って書ける	5 3 1
12	漢字語彙の使用	漢字語彙を使って書ける	5 3 1
書字力・表記ルール			
13	ひらがな	正しく書ける	5 3 1
14	カタカナ語	カタカナ語が正しく書ける	5 3 1
15	表記ルール	表記ルールを守って書ける	5 3 1
16	送り仮名	送り仮名が正しく書ける	5 3 1
書く態度			
17	意欲と取り組み方	積極的に自力で取り組める	5 3 1
18	書く前の準備	メモを作って内容や構成を考える	5 3 1
19	書いた後	読み返して間違いに気付く	5 3 1
総合評価			
備考（母語の状況）		総合得点	点
		平均点	点
		/ 19 ⇒	点

名前： \_\_\_\_\_ (男・女) 学年(所属)： \_\_\_\_\_ 年 月 日

- ・子どもの作文を見て、あてはまる評価点（5・3・1）に○をつける。  
中間を選択し、2点、4点をつけてもよい。

■評価基準■ 5：とてもよい 3：ふつう 1：もう少し

内容			
1	作文の長さ	課題に添った字数で書ける	5 3 1
2	内容の豊かさ	興味深い内容が書ける	5 3 1
3	表現の工夫	効果的な表現が使える	5 3 1
構成			
4	全体のまとめ	構成を考えて書ける	5 3 1
5	段落	段落が作れる	5 3 1
6	文と文のつながり	適切な接続詞が使える	5 3 1
文の質・正確度			
7	文の複雑さ	「～て」、「～から」などを使って複文も書ける	5 3 1
8	文の正確度	文法的に正しい文が書ける	5 3 1
9	文末の統一	です・ます体で統一して書ける	5 3 1
語彙・漢字力			
10	語彙の多様性	語彙が豊か	5 3 1
11	語彙の適切性	テーマに見合った適切な語彙を使って書ける	5 3 1
12	漢字語彙の使用	漢字語彙を使って書ける	5 3 1
書字力・表記ルール			
13	ひらがな	正しく書ける	5 3 1
14	カタカナ語	カタカナ語が正しく書ける	5 3 1
15	表記ルール	表記ルールを守って書ける	5 3 1
16	送り仮名	送り仮名が正しく書ける	5 3 1
書く態度			
17	意欲と取り組み方	積極的に自力で取り組める	5 3 1
18	書く前の準備	メモを作って内容や構成を考える	5 3 1
19	書いた後	読み返して修正しようとする	5 3 1
総合評価			
備考（母語の状況）		総合得点	点
		平均点	点
		／19⇒	点

名前： \_\_\_\_\_ (男・女) 学年(所属)： \_\_\_\_\_ 年 月 日

- 子どもの作文を見て、あてはまる評価点（5・3・1）に○をつける。  
中間を選択し、2点、4点をつけてもよい。

■評価基準■ 5：とてもよい 3：ふつう 1：もう少し

内容			
1	作文の長さ	課題に添った字数で書ける	5 3 1
2	内容の豊かさ	意見と根拠がしっかり書ける	5 3 1
3	表現の工夫	効果的な表現が使える	5 3 1
構成			
4	全体のまとめ	構成を考えて書ける	5 3 1
5	段落	段落が作れる	5 3 1
6	文と文のつながり	適切な接続詞が使える	5 3 1
文の質・正確度			
7	文の複雑さ	「～て」、「～から」などを使って複文も書ける	5 3 1
8	文の正確度	文法的に正しい文が書ける	5 3 1
9	文末の統一	「だ・である体」で統一して書けるまたは「です・ます体」で統一して書ける	5 3 1
語彙・漢字力			
10	語彙の多様性	語彙が豊か	5 3 1
11	語彙の適切性	テーマに見合った適切な語彙を使って書ける	5 3 1
12	漢字語彙の使用	漢字語彙を使って書ける	5 3 1
書字力・表記ルール			
13	ひらがな	正しく書ける	5 3 1
14	カタカナ語	カタカナ語が正しく書ける	5 3 1
15	表記ルール	表記ルールを守って書ける	5 3 1
16	送り仮名	送り仮名が正しく書ける	5 3 1
書く態度			
17	意欲と取り組み方	積極的に自力で取り組める	5 3 1
18	書く前の準備	メモを作って内容や構成を考える	5 3 1
19	書いた後	読み返して修正しようとする	5 3 1
総合評価			
備考（母語の状況）		総合得点	点
		平均点	点
		/ 19 ⇒	点

名前： \_\_\_\_\_ (男・女) 学年(所属)： \_\_\_\_\_ 年 月 日

- 子どもの作文を見て、あてはまる評価点（5・3・1）に○をつける。  
中間を選択し、2点、4点をつけてもよい。

■評価基準■ 5：とてもよい 3：ふつう 1：もう少し

内容			
1	作文の長さ	課題に添った字数で書ける	5 3 1
2	内容の豊かさ	説得力のある意見と根拠が書ける	5 3 1
3	表現の工夫	効果的な表現が使える	5 3 1
構成			
4	全体のまとめ	構成を考えて書ける	5 3 1
5	段落	段落が作れる	5 3 1
6	文と文のつながり	適切な接続詞が使える	5 3 1
文の質・正確度			
7	文の複雑さ	「～て」、「～から」などを使って複文も書ける	5 3 1
8	文の正確度	文法的に正しい文が書ける	5 3 1
9	文末の統一	「だ・である体」で統一して書けるまたは「です・ます体」で統一して書ける	5 3 1
語彙・漢字力			
10	語彙の多様性	語彙が豊か	5 3 1
11	語彙の適切性	テーマに見合った適切な語彙を使って書ける	5 3 1
12	漢字語彙の使用	漢字語彙を使って書ける	5 3 1
書字力・表記ルール			
13	ひらがな	正しく書ける	5 3 1
14	カタカナ語	カタカナ語が正しく書ける	5 3 1
15	表記ルール	表記ルールを守って書ける	5 3 1
16	送り仮名	送り仮名が正しく書ける	5 3 1
書く態度			
17	意欲と取り組み方	積極的に自力で取り組める	5 3 1
18	書く前の準備	メモを作って内容や構成を考える	5 3 1
19	書いた後	読み返して修正しようとする	5 3 1
総合評価			
備考（母語の状況）		総合得点	点
		平均点	点
		/ 19 ⇒	点

ステージ	内容	構成	文の質・正確度	語彙・漢字力	書字力・表記ルール	書く態度
6	<input type="checkbox"/> 内容に見合った長さの作文が書ける <input type="checkbox"/> 内容が豊か <input type="checkbox"/> 年齢相応の表現技術が使える	<input type="checkbox"/> まとまりのある作文が書ける <input type="checkbox"/> 効果的な段落が作れる	<input type="checkbox"/> 複雑な文が書ける <input type="checkbox"/> 正しい文が書ける <input type="checkbox"/> 文末の統一ができる	<input type="checkbox"/> テーマに見合った適切な語彙を使って書ける <input type="checkbox"/> 年齢相応のさまざまな語彙や漢字が使える	<input type="checkbox"/> 表記上、正確度の高い文章が書ける	<input type="checkbox"/> 書くことに意欲的に取り組み <input type="checkbox"/> 書く前に準備をする <input type="checkbox"/> 書いた後読み返して修正しようとする
5	<input type="checkbox"/> 内容がある程度豊か <input type="checkbox"/> 表現上の工夫がある	<input type="checkbox"/> ある程度まとまりのある作文が書ける <input type="checkbox"/> 段落が作れる	<input type="checkbox"/> 複雑な文もある程度書ける <input type="checkbox"/> 大体正確な文が書ける <input type="checkbox"/> ある程度文末の統一がとれる	<input type="checkbox"/> テーマに見合った語彙がある程度使える <input type="checkbox"/> 年齢相応に近い語彙や漢字が使える	<input type="checkbox"/> 表記上、誤用が少ない文章が書ける	<input type="checkbox"/> 課題作文に積極的に取り組み <input type="checkbox"/> 書く前の準備をある程度する <input type="checkbox"/> 書いた後読み返す
4	<input type="checkbox"/> テーマに添った作文が書ける	<input type="checkbox"/> 文と文をつなげて、流れのある作文が書ける	<input type="checkbox"/> 誤用はあるが意味の通じる文が書ける	<input type="checkbox"/> 日常語彙を使って作文が書ける <input type="checkbox"/> 少し下の年齢枠の語彙や漢字が使える	<input type="checkbox"/> 表記上の誤用はあるが、意味は通じる文が書ける	<input type="checkbox"/> 課題作文に自分で取り組み
3	<input type="checkbox"/> テーマと関連がある文がいくつか書ける	<input type="checkbox"/> テーマと関連がある複数の文が書ける	<input type="checkbox"/> 誤用が多いが、連文が書ける	<input type="checkbox"/> 日常語彙をある程度使って文が書ける <input type="checkbox"/> 少し下の年齢枠の語彙や漢字がある程度使える	<input type="checkbox"/> 文字・表記上の誤用が多い	<input type="checkbox"/> 支援を得て課題作文に取り組み
2	<input type="checkbox"/> 使い慣れた表現を使って書こうとする	<input type="checkbox"/> 文を書こうとする	<input type="checkbox"/> ひらがなとカタカナを使い分けて文を書こうとする	<input type="checkbox"/> 既習語彙や漢字を使って文を書こうとする	<input type="checkbox"/> 表記ルールをある程度理解して文を書こうとする	<input type="checkbox"/> 支援者といっしょに考え、支援を受けながら書くことに取り組みようとする
1	<input type="checkbox"/> テーマに関連する単語が書ける	<input type="checkbox"/> いくつかの関連する単語を並べることができる	<input type="checkbox"/> ひらがなが書ける	<input type="checkbox"/> よく知っている単語が書ける	<input type="checkbox"/> 表記ルールについての理解が始まる	<input type="checkbox"/> 作文を書く指導を受け始める



## DLA 〈聴く〉 概要

### (1) 目的

- **DLA** 〈聴く〉 で測る「聴く力」とは、教科学習に必要な聴く力、つまり学習の場での教師の説明等まとまった内容の話を聴いて理解でき、聴いた内容を整理し活用できる言語能力と考えます。日々の学習の場面では聴くことが多くの時間を占めていることから、聴く力は教科学習に不可欠な言語能力と言えます。
- **DLA** 〈聴く〉 では、対話を通して児童生徒の聴く力の現状を把握し、そこから、児童生徒の授業参加への可能性を探ることを目指しています。

### (2) 対象

- **DLA** 〈聴く〉 は、会話力があるが、授業内容の理解が難しい児童生徒を対象とします。次のような場合に有効です。
  - 1) 入学・転入時に、まとまった内容の話をどの程度聴けるか確かめたい場合。
  - 2) 取り出し指導をしているが、まとまった内容の話をどの程度聴けるか確かめたい場合。
  - 3) クラスに在籍しているが、授業を聴いてどの程度理解しているか判断しきれない場合。
- **DLA** 〈聴く〉 の測定は、JSL評価参照枠のステージ3から始まります。そのため、〈はじめの一步〉でほとんど受け答えが成立しなかった子どもには実施できません。

### (3) 方法

- 児童生徒は、ふだん教室の中で音声言語だけでなく教師の表情や声の調子、教師とのやり取り、図表・絵・写真、教師の板書等のさまざまなヒントを得て、また児童生徒自身の体験、既存知識等を活性化させることにより内容を聴き取り理解しています。そこで、**DLA** 〈聴く〉 では、教室活動や教科のテーマに関わるまとまりのある内容の話を**DLA** 〈聴く〉 映像（以下、聴解用DVD）を作成しました（別添資料）。
- まず概要を読んで、児童生徒の年齢枠やその他の状況を踏まえて、使用可能なテーマの聴解用DVDを選びます。その際、p107の内容の説明や巻末資料の SCRIPT（p168-171）を参照してください。それから視覚補助教材（巻末資料p172-177）を選びます。
- 次に、**DLA** 〈聴く〉 実践ガイド（p111-126）にそって聴解用DVDを聴かせ、評価者と一対一での対話を通して、話の大筋をどの程度理解しているか測ります。
- 児童生徒はまだ未熟な会話力を使って話すので、測定に当たっては、評価者は児童生徒の表現する内容を推測する必要があります。

### (4) 構成

- **DLA** 〈聴く〉 は、次の4つからなっています。

#### ① 「DLA 〈聴く〉 聴解用DVD」

8本の映像を収録した聴解用DVDがあります。児童生徒の年齢、滞日年数、日本語のレベル等を考慮し選びます。

#### ② 「DLA 〈聴く〉 実践ガイド」（p111-126）

聴解用DVDに対応した **DLA** 〈聴く〉 の実践の手引きです。評価者は、ここに書かれている手順、声かけ、発問例に従って進めます。

#### ③ 「DLA 〈聴く〉 診断シート」（p127-134）

**DLA** 〈聴く〉 を実施したあと、採点・評価に使用します。

#### ④ 「JSL評価参照枠〈聴く〉」（p135）

採点・評価で診断シートに記入した結果を、JSL評価参照枠「聴く」に照らし合わせて、ステージを決定します。

## (5) 実施の前に

### 用意するもの

- DLA 〈聴く〉の実施には以下のものを用意します。
  - 選択した聴解用DVD
  - 映像を映し出すコンピュータ
  - 聴解用DVDに対応したDLA 〈聴く〉実践ガイド ( p111-126 )
  - メモ用紙と筆記具 (高学年以上)
  - 聴解用DVD のための視覚補助教材
  - 録音機器

### 使用する聴解用DVDの選択方法

- DLA 〈聴く〉では、以下の計8本の映像を収録した聴解用DVDを別添資料として用意しました。下の【聴解用DVDの対象年齢】の表を参考にし、児童生徒の年齢、滞日期间、入国年齢、日本語レベル等を考慮して選びます。

#### 【聴解用DVDの対象年齢】

映像の種類	映像の番号	内容	対象の年齢枠				
			6-7歳 (1年生)	7-8歳 (2年生)	8-10歳 (中学年)	10-12歳 (高学年)	12-15歳+ (中学生)
A	1	「えんそく」	◎	○	○		
	2	「うんどうかい」		◎	◎	○	○
	3	「工場見学」				◎	◎
B	4	「えんそくの おしらせ」	◎	○	○		
	5	「トマトの さいばい」		◎	○	○	○
	6	「ごみの ゆくえ」			◎	○	○
	7	「エネルギー」				◎	○
	8	「地震」					◎

- 表中の◎印は年齢に基づいたテーマ選択の目安ですが、子どもに応じて○印のテーマを選んでもかまいません。
- 聴解用DVDは、JSL児童生徒に対する授業のモデルとして作成されたものではありません。JSL児童生徒を意識した授業の一端を示した授業例とお考えください。

#### 【聴解用DVDの内容】

- 聴解用DVDは、A、Bの2種類あります。
  - A 初歩レベルのまとまりのある話を聴く力を測るための聴解用DVD (上記表の映像の番号1~3)
    - 聴解用DVDの1~3は、取り出し教室での行事の連絡の場面を映しています (各1分)。
    - 年齢枠によりトピックが変わります。
  - B 教科の授業を聴く力を測るための聴解用DVD (上記表の映像の番号4~8)
    - 聴解用DVD4は、朝の会、帰りの会等、教室活動の一部を、聴解用DVDの5~8は、教科のテーマに関連した授業の一部を映しています (各3~5分)。
    - 聴解用DVDの5~8は、次のような教科の中のテーマに基づいてリライトしたものです。
      - 5「トマトの さいばい」 (小2「せいかつ」)
      - 6「ごみの ゆくえ」 (小4「社会」)
      - 7「エネルギー」 (小6「国語」)
      - 8「地震」 (中2「科学」)

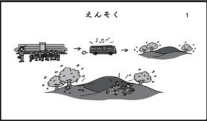
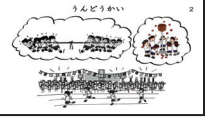



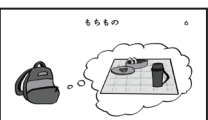


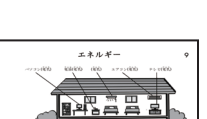
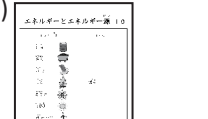
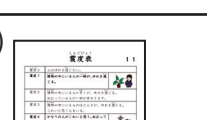

- ・児童生徒の聴く力をより適正に測るために、基本的には、**A**、**B**の2種類のDVDを聴かせることをお勧めします。しかし、ふだんの観察から判断して**B**から始めてもかまいません。
- ・**B**の聴解用DVDを使用する場合は、まず、年齢より一段、または二段下のDVDを聴かせた方がよいでしょう。それらが理解できるようであれば、段階を上げて聴かせてみましょう。
- ・聴解用DVDのSCRIPTは巻末を参照してください。

テーマ	内容
1「えんそく」	小学校低学年の児童向け。教師が遠足について、いつ行くか、どこへ行くか、どのように行くか、絵を見せながら話しています。
2「うんどうかい」	小学校低・中学年の児童向け。教師が運動会について、運動会の日、参加する種目、服装、当日の給食のことを絵を見せながら話しています。
3「工場見学」	小学校高学年以上の児童生徒向け。教師が工場の見学について、いつ行くか、何の工場へ見学に行くか、何を持っていくか絵を見せながら説明しています。
4「えんそくのおしらせ」	小学校の低学年児童向け。学校での朝の会、帰りの会での遠足の連絡がテーマとなっています。教師が児童に5月10日に予定されている遠足について、行く日、行き先、持ち物を説明しています。
5「トマトのさいばい」	小学校低・中学年の児童向け。まず、今日の授業でやること（外に出てトマトの栽培をする）について、教師が手順を説明しています。また、トマトがこれからどう育っていくのか、育てるときの注意事項についても説明しています。
6「ごみの ゆくえ」	小学校中学年・高学年の児童向け。「ごみのゆくえ」の授業の導入の部分を扱っています。教師は、清掃車の人の服装の特徴から話を始め、次に、1週間かけて調べてきたそれぞれの家庭のごみ調べの結果を子どもたちに言わせ、要点を黒板にまとめています。これから、ごみのごみ処理センターでどう処理されるのか見ていくというところで授業は終わっています。
7「エネルギー」	小学校高学年以上の児童生徒向け。教師は、過去、現在の日本のエネルギーを示す2枚のグラフを示して比べながら、エネルギー源が変わってきていることを説明しています。さらに、2011年3月の東北大地震により日本のエネルギー状況がまた変わるかもしれないと述べています。最後に、アイスランドのエネルギーのグラフを示し、将来の日本のエネルギー源がどうなるか児童生徒に考えさせています。
8「地震」	中学生向け。地震についての授業の導入部分を取り上げています。教師は、昨日の地震から話を始めています。震度とマグニチュードの違い、震度表に示された地震の揺れの程度、また、地震計により測定された地震のデータから地震のゆれの特徴について、板書、図表、データを示しながら、生徒とやり取りをしながら説明しています。

## 視覚補助教材

- ・聴解用DVDの内容の理解を助けるために、視覚補助教材が用意されています。
- ・聴解用DVDを視聴する前に、必要に応じて、視覚補助教材を使ってそれぞれのテーマのキーワードを確認します。
- ・視覚補助教材は、子どもの状況に応じて必要なものだけをご使用ください。全部使うと、時間がかかりすぎるおそれがあります。
- ・次に、視覚補助教材とキーワードの例を示します。ご使用の際の参考としてください。
- ・なお、キーワードの例の中には、「体育の服」「ごみ処理センター」等、各地で呼び方の異なるものが含まれています。それぞれのところで使われている名称を使ってください。

【視覚補助教材】

	テーマ	視覚補助教材と教材番号	キーワード例
1	「えんそく」	(1) 	遠足（に行く）、あした、さくら山、バス（で行く）…
2	「うんどうかい」	(2)  (3) 	運動会、走る、体育の服（体操服）、給食…
3	「工場見学」	(4) 	自動車工場、工場見学（に行く）、来週、お弁当、ノート…
4	「えんそくのおしらせ」	(5)  (6) 	遠足、（大山）公園、山に登る、水筒、お弁当…
5	「トマトのさいばい」	(7) 	トマトのさいばい、土（を入れる）、植木鉢、トマトの苗、つる（がのびる）、棒（を立てる）…
6	「ごみのゆくえ」	(8) 	ごみ収集車、燃やすごみ、生ごみ、ペットボトル、ごみ処理センター…
7	「エネルギー」	(9)  (10) 	エネルギー、エネルギー源、石油、原子力、アイスランド、太陽…
8	「地震」	(11)  (12) 	地震、震度、マグニチュード、地震の揺れ、地震計、地震の特徴…

## (6) 実施手順

- ・実践ガイドにしたがって、「聴くまえに」「聴きましょう」「聴いたあとで」の順に進めます。

### ① 聴くまえに

- ・聴解用DVDを視聴する前に、必要に応じて視覚補助教材を示して、話のテーマ、キーワードの理解を深めます。
- ・また、テーマについて質問し、児童生徒の関心を引き出します。

### ② 聴きましょう

- ・映像は原則として1回見せます。周辺がうるさかったり、メモ取りに集中しすぎたり等、何らかの事情で途中、問題が生じた場合は、初めから聴かせてください。
- ・聴解用DVD視聴中にわからない言葉があったら、聴き終わった後で質問するように指示します。
- ・聴解用DVDを視聴している間、評価者は児童生徒がどのように聴いているか観察してください。

### ③ 聴いたあとで

#### 【話の大筋再生】

- ・児童生徒が、聴解用DVDの話聴いてどのくらい話の内容が理解できたか、話の大筋を児童生徒に言わせます。「DLA〈聴く〉実践ガイド」(p111-126)にある「大筋再生チェックリスト」を参考に、どのくらい再生できたかチェックします。リストにあるもので、触れなかったものは、質問して答えを引き出します。
- ・文で答えられなくても、「大筋再生チェックリスト」にある下線の語が再生できれば、内容が理解できていると考えます。
- ・暗記チェックではないので、話の大筋が大体言えればよいとします。

#### 【感想・意見】

- ・聴解用DVDの話聴いて、どう感じ、思ったか児童生徒に言わせます。評価者は、児童生徒の発話を最大限引き出すようにしてください。

#### 【母語の聴く力】

- ・母語力の高い児童生徒には、母国の学校での様子を聴き、母語での聴く力を探ります。

## (7) 実施上の留意点

- ・児童生徒の質問に対しては、短い単文でわかりやすく説明します。
- ・児童生徒が答えに詰まる時は、答えを引き出すように努めましょう。
- ・児童生徒が答える時、うろ覚えの言葉を繰り返したら正解を与えてください。
- ・小学校高学年以上の児童生徒で希望する場合、聴いている時にメモを取らせてもいいですが、メモを取ることに集中しすぎないようにしましょう。
- ・児童生徒の日本語レベルに関わらず、最後には、まとまった内容の日本語を「聴いた」ということを高く評価して終わってください。

## (8) 評価の方法

- ・DLA〈聴く〉が終了したら、採点・評価にうつります。
- ・DLA〈聴く〉の測定で予想できるのは、ステージ(3~5)までと考えます。
- ・児童生徒の学習参加への可能性は、DLA〈聴く〉の測定結果だけでなく、他のDLAの技能の結果やふだんの学習活動の状況ともあわせて総合的に判断します(p140)。

## 用意するもの

- ・聴解用DVDに対応した**DLA**〈聴く〉診断シート（p127～134）
- ・JSL評価参照枠「聴く」

## 評価手順

- ・**DLA**〈聴く〉診断シートに示された評価項目について、5点（とてもよい）、3点（ふつう）、1点（もう少し）で採点します。判断に揺れる場合は、2点、4点をつけてもかまいません。
- ・総合得点の平均点を算出します。
- ・それぞれの診断シートに記された評価点を、JSL参照枠「聴く」（p135）に照らし合わせて、また、ふだんの学習活動の様子も踏まえて、総合的にステージ（3～6）を判定します。

## 評価の項目とJSL評価参照枠との関係

- ・**DLA**〈聴く〉では、JSL評価参照枠〈聴く〉に沿って、下の表の「聴解力」、「聴解行動」、「語彙・表現」を評価基準とします。
- ・測定の時、基本的には聴解用DVDの**A**と**B**の両方を聴かせますが、**A**の聴解に問題なければ、**A**についての評価は必要ありません。**B**について評価してください。

	評価項目	測定の内容
<b>聴解力</b>	教師の話の内容の大筋と流れ	教師の話の大筋と流れが大体理解できたか
	感想・意見	聴いた内容について感想や意見が言えたか
<b>聴解行動</b>	集中	集中して最後まで聴けたか
	関心	関心をもって聴けたか
	未習語	未習語があっても推測して聴こうとしたか
<b>語彙・表現</b>	テーマに関わる語彙・表現	テーマに関わる語彙・表現が大体理解できたか
	大事な語彙・表現	教師の話の中の大事な語彙・表現が理解でき、使おうとしたか

## 聴くまえに....

- ① テーマの紹介と確認：これからすることを児童のやる気が増すように楽しく説明する。



これから「えんそく」のビデオを見ます。「遠足」って知ってますか。

- ② キーワードの確認：必要があったら、視覚補助教材(1)を示して、キーワードを確認する。



これは「遠足」の絵です。この絵を見てください。

・例えば、次のような応答をする。「これは何ですか。」「これはバスですね。」「バスでどこへ行きますか。」「さくら山へ行きますよ。さくら山へ遠足に行きます。」…

- ③ 興味・関心：テーマについて知っていることを確認し、興味・関心を高める。



遠足に行ったことがありますか。遠足は好きですか/楽しかったですか。

・話が広がらないように注意する。

## 聴きましょう....

- ① 聴解用DVDを聴かせる。



では、これからビデオを見ましょう。  
ビデオの中で、先生が遠足の話をしています。いつ行きますか。どこに行きますか。  
先生のお話をよく聴いてくださいね。後で、質問しますよ。

・聴解用DVD視聴中にわからない言葉があったら、後で質問するように指示する。



わからない言葉があったら、後で聴いてくださいね。では、始めます。

・DVDが終わったら、声かけをする。



ビデオはこれで終わりです。よく聴けましたね。

## 聴いたあとで....

- ① 話の大筋再生：DVDを聴いて、子どもが話の内容を再生する。



さあ、先生はどんなお話をしましたか。話してください。

・下の話の大筋再生チェックリストを参考に、どのぐらい理解できているかチェックする。リストの通りでなくともよい。



さあ、先生はどんなお話をしましたか。話してください。

話の大筋再生チェックリスト

- |                                        |          |
|----------------------------------------|----------|
| <input type="checkbox"/> 1. 遠足の話をしました。 | [内容]     |
| <input type="checkbox"/> 2. 明日、行きます。   | [予定・行く日] |
| <input type="checkbox"/> 3. さくら山へ行きます。 | [行き先]    |
| <input type="checkbox"/> 4. バスで行きます。   | [交通手段]   |

・リストの中の内容で、触れられなかったものは、次のように質問し、子どもの発話を引き出す。

質問例

- 1. 先生は、何の話をしましたか。
- 2. いつ遠足に行きますか。
- 3. どこへ行きますか。
- 4. 遠足に何で行きますか。電車で行きますか。
- 5. 先生は、どうして遠足の話をしましたか。 解答例:「明日遠足に行くからです。」

② 感想・意見：聞いた内容について感想や意見が言えるか。



このビデオは、面白かったですか。

・何が面白かったか、どうして面白かったのか、聴いてみる。面白くなかった場合も同様に聴く。

③ 聴解用DVDの言葉：ビデオの中の言葉が理解できたか。



ビデオの中にわからない言葉がありましたか。どんな言葉がわかりませんでしたか。

④ 母語の状況：母語力の高い児童には次のような質問をして母語での聴く力をさぐる。



- ・〇さんは、(国の名前)で学校に行っていましたか。
- ・日本へ来る前、(国の名前)では何年生でしたか。
- ・(国の名前)の学校で、遠足がありましたか。



ビデオの話がよく聴けましたね。では、これで終わります。



### 聴くまえに....

- ① テーマの紹介と確認：これからすることを児童のやる気が増すように楽しく説明する。



これから「うんどうかい」のビデオを見ます。「運動会」って知っていますか。

- ② キーワードの確認：必要があったら、視覚補助教材(2)(3)を示して、キーワードを確認する。



これは「運動会」の絵です。この絵を見てください。

- ・例えば、次のような応答をする。「ここはどこですか。」「学校ですね。」「この人たちは何をしていますか。」「走っていますね。今日は運動会ですね。」...

- ③ 興味・関心：テーマについて知っていることを確認し、興味・関心を高める。



運動会に出たことがありますか。運動会は好きですか/楽しかったですか。

- ・話が広がらないように注意する。

### 聴きましょう....

- ① 聴解用DVDを聴かせる。



では、これからビデオを見ましょう。  
ビデオの中で、先生が運動会の話をしています。運動会はいつありますか。  
運動会で何をしますか。先生のお話をよく聴いてくださいね。後で、質問しますよ。

- ・聴解用DVD視聴中にわからない言葉があったら、後で質問するように指示する。



わからない言葉があったら、後で聴いてくださいね。では、始めます。

- ・DVDが終わったら、声かけをする。



ビデオはこれで終わりです。よく聴けましたね。

### 聴いたあとで....

- ① 話の大筋再生：DVDを聴いて、子どもが話の内容を再生する。



さあ、先生はどんなお話をしましたか。話してください。

聞いたあとで....

- ・下の話の大筋再生チェックリストを参考に、どのぐらい理解できているかチェックする。リストの通りでなくともよい。

話の大筋再生チェックリスト

<input type="checkbox"/> 1. 運動会の話をしました。	[内容]
<input type="checkbox"/> 2. 明日、運動会があります。	[予定]
<input type="checkbox"/> 3. (80メートル)走ります。	[種目]
<input type="checkbox"/> 4. 体育の服で学校へ来ます。	[注意事項]
<input type="checkbox"/> 5. 給食があります。	[注意事項]

- ・リストの中の内容で、触れられなかったものは、次のように質問し、子どもの発話を引き出す。

質問例

- 1. 先生は、何の話をしましたか。
- 2. いつ運動会がありますか。明日何がありますか。
- 3. 運動会で何をしますか。運動会でどのくらい走りますか。
- 4. どんな服を着てきますか。
- 5. 運動会の日給食がありますか。
- 6. 先生はどうして運動会の話をしましたか。 解答例:明日運動会があるからです。

② 感想・意見：聞いた内容について感想や意見が言えるか。

😊 このビデオは、面白かったですか。

- ・何が面白かったか、どうして面白かったのか、聴いてみる。面白くなかった場合も同様に聴く。

③ 聴解用DVDの言葉：ビデオの中の言葉が理解できたか。

😊 ビデオの中にわからない言葉がありましたか。どんな言葉がわかりませんでしたか。

④ 母語の状況：母語力の高い児童には次のような質問をして母語での聴く力をさぐる。

😊

- ・〇さんは、(国の名前)で学校に行っていましたか。
- ・日本へ来る前、(国の名前)では何年生でしたか。
- ・(国の名前)の学校で、運動会がありましたか。

😊 ビデオの話がよく聴けましたね。では、これで終わります。

### 聴くまえに....

- ① テーマの紹介と確認：これからすることを児童のやる気が増すように楽しく説明する。



これから「工場見学」のビデオを見ます。「工場見学」って知っていますか。

- ② キーワードの確認：必要があったら、視覚補助教(4)を示して、キーワードを確認する。



これは「工場見学」の絵です。この絵を見てください。

・例えば、次のような応答をする。「ここはどこですか。」「工場ですね。」「何の工場ですか。」「自動車工場ですね。」「自動車工場で何をしますか。」「工場見学をしますね。」...

- ③ 興味・関心：テーマについて知っていることを確認し、興味・関心を高める。



工場見学に行ったことがありますか。工場見学は楽しかったですか。

・話が広がらないように注意する。

### 聴きましょう....

- ① 聴解用DVDを聴かせる。



では、これからビデオを見ましょう。  
ビデオの中で、先生が工場見学の話をしています。工場見学はいつありますか。  
何の工場へ行きますか。先生のお話をよく聴いてくださいね。後で、質問しますよ。

・聴解用DVD視聴中にわからない言葉があったら、後で質問するように指示する。



わからない言葉があったら、後で聴いてくださいね。では、始めます。

・DVDが終わったら、声かけをする。



ビデオはこれで終わりです。よく聴けましたね。

### 聴いたあとで....

- ① 話の大筋再生：DVDを聴いて、子どもが話の内容を再生する。



さあ、先生はどんなお話をしましたか。話してください。

・下の話の大筋再生チェックリストを参考に、どのぐらい理解できているかチェックする。リストの通りでなくともよい。

話の大筋再生チェックリスト

<input type="checkbox"/> 1. <u>工場見学</u> の話をしました。	[内容]
<input type="checkbox"/> 2. <u>来週</u> 、行きます。	[行く日]
<input type="checkbox"/> 3. <u>自動車の工場</u> に行きます。	[行き先]
<input type="checkbox"/> 4. <u>お弁当</u> 、 <u>水筒</u> 、 <u>鉛筆</u> と <u>ノート</u> を持っています。	[持ち物]

・リストの中の内容で、触れられなかったものは、次のように質問し、子どもの発話を引き出す。

質問例

<input type="checkbox"/> 1. 何の話をしましたか。
<input type="checkbox"/> 2. いつ工場見学に行きますか。来週どこへ行きますか。
<input type="checkbox"/> 3. 何の工場見学に行きますか。
<input type="checkbox"/> 4. 何を持っていますか。
<input type="checkbox"/> 5. 先生は、どうして工場見学の話をしましたか。 解答例: 来週工場見学に行くからです。

② 感想・意見：聞いた内容について感想や意見が言えるか。

😊 このビデオは、面白かったですか。

・何が面白かったか、どうして面白かったのか、聴いてみる。面白くなかった場合も同様に聴く。

③ 聴解用DVDの言葉：ビデオの中の言葉が理解できたか。

😊 ビデオの中にわからない言葉がありましたか。どんな言葉がわかりませんでしたか。

④ 母語の状況：母語力の高い児童には次のような質問をして母語での聴く力をさぐる。

😊

- ・〇さんは、(国の名前)で学校に行っていましたか。
- ・日本へ来る前、(国の名前)では何年生でしたか。
- ・(国の名前)の学校で、工場見学がありましたか。

😊 ビデオの話がよく聴けましたね。では、これで終わります。

### 聴くまえに....

- ① テーマの紹介と確認：これからすることを児童のやる気が増すように楽しく説明する。

☺ これから「えんそくの おしらせ」のビデオを見ます。「遠足」ってわかりますか。

- ② キーワードの確認：必要があったら、視覚補助教材(5)(6)を示して、キーワードを確認する。

☺ これは「遠足」の絵です。この絵を見てください。

・例えば、次のような応答をする。「これは何ですか。」「これはバスですね。」「バスでどこへ行きますか。」「大山公園へ行きますよ。」「今日は遠足です。大山公園で何をしますか。」…

- ③ 興味・関心：テーマについて知っていることを確認し、興味・関心を高める。

☺ 遠足に行ったことがありますか。遠足は好きですか/楽しかったですか。

・話が広がらないように注意する。

### 聴きましょう....

- ① 聴解用DVDを聴かせる。

☺ では、これからビデオを見ましょう。  
ビデオの中で、先生が遠足の話をしています。どこに行きますか。いつ行きますか。  
先生のお話をよく聴いてくださいね。後で、質問しますよ。

・聴解用DVD視聴中にわからない言葉があったら、後で質問するように指示する。

☺ わからない言葉があったら、後で聴いてくださいね。では、始めます。

・DVDが終わったら、声かけをする。

☺ ビデオはこれで終わりです。よく聴けましたね。

### 聴いたあとで....

- ① 話の大筋再生：DVDを聴いて、子どもが話の内容を再生する。

☺ さあ、先生はどんなお話をしましたか。話してください。

- ・ 下の話の大筋再生チェックリストを参考に、どのくらい理解できているかチェックする。リストの通りでなくともよい。

大意再生チェックリスト

- |                                                               |        |
|---------------------------------------------------------------|--------|
| <input type="checkbox"/> 1. <u>遠足</u> の話をしました。                | [内容]   |
| <input type="checkbox"/> 2. <u>5月10日(木)</u> に、遠足に行きます。        | [行く日]  |
| <input type="checkbox"/> 3. <u>大山公園</u> に行きます。                | [行き先]  |
| <input type="checkbox"/> 4. <u>大山</u> に登ります。                  | [すること] |
| <input type="checkbox"/> 5. <u>お弁当・水筒・(レジャー)シート</u> を持っていきます。 | [持ち物]  |

- ・ リストの中の内容で、触れられなかったものは、次のように質問し、子どもの発話を引き出す。

質問例

- |                                                                     |
|---------------------------------------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 1. 何の話をしましたか。                              |
| <input type="checkbox"/> 2. 5月10日に何をしますか。いつ遠足に行きますか。                |
| <input type="checkbox"/> 3. どこへ行きますか。                               |
| <input type="checkbox"/> 4. 大山公園で何をしますか。                            |
| <input type="checkbox"/> 5. どんなものを持っていきますか。                         |
| <input type="checkbox"/> 6. 先生はどうして遠足の話をしましたか。 解答例:5月10日に遠足に行くからです。 |
| <input type="checkbox"/> 7. レジャーシートはいつ使いますか。 解答例:山でお昼ご飯を食べる時、使います。  |

② 感想・意見：聞いた内容について感想や意見が言えるか。

😊 このビデオは、面白かったですか。

- ・ 何が面白かったか、どうして面白かったのか、聴いてみる。面白くなかった場合も同様に聴く。

③ 聴解用DVDの言葉：ビデオの中の言葉が理解できたか。

😊 ビデオの中にわからない言葉がありましたか。どんな言葉がわかりませんでしたか。

④ 母語の状況：母語力の高い児童には次のような質問をして母語での聴く力をさぐる。

😊 ・ ○さんは、(国の名前)で学校に行っていましたか。  
 ・ 日本へ来る前、(国の名前)では何年生でしたか。  
 ・ (国の名前)の学校で、遠足に行ったことがありますか。

😊 ビデオの話がよく聴けましたね。では、これで終わります。

## 聴くまえに....

- ① テーマの紹介と確認：これからすることを児童のやる気が増すように楽しく説明する。

😊 これから「トマトのさいばい」のビデオを見ます。「トマトの栽培」ってわかりますか。

- ② キーワードの確認：必要があったら、視覚補助教材(7)を示して、キーワードを確認する。

😊 これは「トマトのさいばい」の絵です。この絵を見てください。

・例えば、次のような応答をする。「これは何ですか。」「植木鉢ですね。」「植木鉢に何を入れますか。」「土を入れますね。」「植木鉢で何を育てますか。」「トマトを育てます。栽培します」...

- ③ 興味・関心：テーマについて知っていることを確認し、興味・関心を高める。

😊 トマトを栽培したことがありますか。トマトや花の栽培は好きですか。

・話が広がらないように注意する。

## 聴きましょう....

- ① 聴解用DVDを聴かせる。

😊 では、これからビデオを見ましょう。ビデオの中で、先生がトマトの栽培の話をしています。先生のお話をよく聴いてくださいね。皆はこれからどんなことをやりますか。どのようにトマトを育てますか。後で、質問しますよ。

・聴解用DVD視聴中にわからない言葉があったら、後で質問するように指示する。

😊 わからない言葉があったら、後で聴いてくださいね。では、始めます。

・DVDが終わったら、声かけをする。

😊 ビデオはこれで終わりです。よく聴けましたね。

## 聴いたあとで....

- ① 話の大筋再生：DVDを聴いて、子どもが話の内容を再生する。

😊 さあ、先生はどんなお話をしましたか。話してください。

- ・ 下の話の大筋再生チェックリストを参考に、どのくらい理解できているかチェックする。リストの通りでなくともよい。

大意再生チェックリスト

<input type="checkbox"/> 1. トマトの苗を植えます。	[作業内容]
<input type="checkbox"/> 2. 先生から植木鉢をもらいます。	[手順]
<input type="checkbox"/> 3. 植木鉢に土を入れます。	[手順]
<input type="checkbox"/> 4. 苗を植木鉢のまん中に置きます。	[手順]
<input type="checkbox"/> 5. 次に土を入れます。	[手順]
<input type="checkbox"/> 6. トマトが大きくなったら、棒を立てます。	[注意事項]
<input type="checkbox"/> 7. 水をあげます。	[注意事項]

- ・ リストの中の内容で、触れられなかったものは、次のように質問し、子どもの発話を引き出す。

質問例

<input type="checkbox"/> 1. 何の話をしましたか。
<input type="checkbox"/> 2. 先生から何をもらいますか。
<input type="checkbox"/> 3. どこに土を入れますか。 植木鉢に何をを入れますか。 どのくらい入れますか。
<input type="checkbox"/> 4. トマトの苗を植木鉢のどこに置きますか。
<input type="checkbox"/> 5. 次に何をしますか。
<input type="checkbox"/> 6. トマトが大きくなったら何をしますか。
<input type="checkbox"/> 7. 毎日、何をあげますか。
<input type="checkbox"/> 8. どうして棒を立てますか。 解答例:「つるが倒れないようにするためです。」

② 感想・意見：聞いた内容について感想や意見が言えるか。

☺ このビデオは、面白かったですか。

- ・ 何が面白かったか、どうして面白かったのか、聴いてみる。面白くなかった場合も同様に聴く。

③ 聴解用DVDの言葉：ビデオの中の言葉が理解できたか。

☺ ビデオの中にわからない言葉がありましたか。どんな言葉がわかりませんでしたか。

④ 母語の状況：母語力の高い児童には次のような質問をして母語での聴く力をさぐる。

☺

- ・ ○さんは、(国の名前)で学校に行っていましたか。
- ・ 日本へ来る前、(国の名前)では何年生でしたか。
- ・ (国の名前)の学校で、トマトの栽培をしたことがありますか。

☺ ビデオの話がよく聴けましたね。では、これで終わります。



## 聴くまえに....

- ① テーマの紹介と確認：これからすることを児童のやる気が増すように楽しく説明する。



これから「ごみのゆくえ」のビデオを見ます。「ごみの行方」ってわかりますか。

- ② キーワードの確認：必要があったら、視覚補助教材(8)を示して、キーワードを確認する。



これは「ごみのゆくえ」の絵です。この絵を見てください。

- ・例えば、次のような応答をする。「これは皆ごみです。どんなごみですか」「これは生ごみ、古新聞…ですね。」/「生ごみは燃やしますか。」…/「生ごみはどこへ行きますか。生ごみの行方がわかりますか。」「そうですね。ごみ処理センターへ行きますね。」…

- ③ 興味・関心：テーマについて知っていることを確認し、興味・関心を高める。



ごみについて勉強したことがありますか。面白かったですか。

- ・話が広がらないように注意する。

## 聴きましょう....

- ① 聴解用DVDを聴かせる。



では、これからビデオを見ましょう。先生がごみの話をしています。ごみ収集車の人はどんな服を着ていますか。家庭から出るゴミにはどんなゴミがありますか。先生のお話をよく聴いてくださいね。後で、質問しますよ。

- ・聴解用DVD視聴中にわからない言葉があったら、後で質問するように指示する。



わからない言葉があったら、後で聴いてくださいね。では、始めます。

- ・DVDが終わったら、声かけをする。



ビデオはこれで終わりです。よく聴けましたね。

## 聴いたあとで....

- ① 話の大筋再生：DVDを聴いて、子どもが話の内容を再生する。



さあ、先生はどんなお話をしましたか。話してください。

- ・下の話の大筋再生チェックリストを参考に、どのぐらい理解できているかチェックする。リストの通りでなくともよい。

話の大筋再生チェックリスト

<input type="checkbox"/> 1. <u>ごみを集める人はヘルメットをかぶります。</u>	
<input type="checkbox"/> 2. 家からで出るごみは、 <u>生ごみ</u> 、 <u>紙屑</u> 、 <u>古新聞</u> 、 <u>ペットボトル</u> などです。	[結果]
<input type="checkbox"/> 3. <u>生ごみと紙屑は燃やします。</u>	[処理法]
<input type="checkbox"/> 4. 古新聞とペットボトルは <u>燃やしません。</u>	[処理法]
<input type="checkbox"/> 5. <u>ごみはごみ収集車でごみ処理センターに運ばれます。</u>	[処理法]

- ・リストの中の内容で、触れられなかったものは、次のように質問し、子どもの発話を引き出す。

質問例

<input type="checkbox"/> 1. ごみを集める人はどんな服を着ていますか。 どうして長袖、長ズボンの服を着ていますか。 どうしてヘルメットをかぶっていますか。
<input type="checkbox"/> 2. うちで出るごみにはどんなごみがありますか。
<input type="checkbox"/> 3. 生ごみは燃やしますか、燃やしませんか。 古新聞とペットボトルは燃やしますか、燃やしませんか。
<input type="checkbox"/> 4. 1週間うちで何を調べましたか。
<input type="checkbox"/> 5. ごみはごみ収集車でどこへ運ばれますか。
<input type="checkbox"/> 6. 今日の授業の初めにどんな車の話をしましたか。 解答例:「ごみ収集車の話をしました。」

② 感想・意見：聞いた内容について感想や意見が言えるか。

☺ このビデオは、面白かったですか。どんなところが面白かったですか。

- ・何が面白かったか、どうして面白かったのか、聴いてみる。面白くなかった場合も同様に聴く。

☺ ・ごみがどんどん増えていったら、どんな困ることがありますか。  
 ・ごみを増やさないようにするために、どうしたらよいと思いますか。

- ・自分の体験と結び付けてどう感じた/思ったか話させる。

③ 聴解用DVDの言葉：ビデオの中の言葉が理解できたか。

☺ ビデオの中にわからない言葉がありましたか。どんな言葉がわかりませんでしたか。

④ 母語の状況：母語力の高い児童には次のような質問をして母語での聴く力をさぐる。

☺ ・〇さんは、(国の名前)で学校に行っていましたか。  
 ・日本へ来る前、(国の名前)では何年生でしたか。  
 ・(国の名前)の学校で、ごみの勉強をしたことがありますか。

☺ ビデオの話がよく聴けましたね。では、これで終わります。

## 聴くまえに....

- ① テーマの紹介と確認：これからすることを児童のやる気が増すように楽しく説明する。



これから「エネルギー」のビデオを見ます。「エネルギー」ってわかりますか。

- ② キーワードの確認：必要があったら、視覚補助教材(9)(10)を示して、キーワードを確認する。



これは「エネルギー」の絵です。この絵を見てください。

・例えば、次のような応答をする。「テレビはどんなエネルギーで動きますか。」「電気で動きますね。」…/「ガソリンは何から作りますか。ガソリンのエネルギー源は何ですか。」「そうですね。石油ですね。」…

- ③ 興味・関心：テーマについて知っていることを確認し、興味・関心を高める。



エネルギーについて勉強したことがありますか。面白かったですか。

・話が広がらないように注意する。

## 聴きましょう....

- ① 聴解用DVDを聴かせる。



では、これからビデオを見ましょう。先生がエネルギーの話をしています。昔はどんなエネルギーをたくさん使っていましたか。今はどうですか。先生の話をよく聴いてくださいね。後で、質問しますよ。

・聴解用DVD視聴中にわからない言葉があったら、後で質問するように指示する。



わからない言葉があったら、後で聴いてくださいね。では、始めます。

・DVDが終わったら、声かけをする。



ビデオはこれで終わりです。よく聴けましたね。

## 聴いたあとで....

- ① 話の大筋再生：DVDを聴いて、子どもが話の内容を再生する。



さあ、先生はどんなお話をしましたか。話してください。

- ・下の話の大筋再生チェックリストを参考に、どのぐらい理解できているかチェックする。リストの通りでなくともよい。

話の大筋再生チェックリスト	
□ 1. 今から35年以上前(1975年)は、日本では、 <u>石油が一番多く使われていた</u> 。(62.1%)。	〔過去のエネルギー源〕
□ 2. 今から <u>5,6年前(2006年)に</u> 、 <u>原子力が一番多く使われるようになった</u> (30.5%)。	〔現在のエネルギー源〕
□ 3. 東日本大震災で、 <u>原子力発電所の事故があった</u> 。それで、 <u>原子力は使えなくなってしまうかもしれない</u> 。	〔転機〕
□ 4. <u>アイスランドでは</u> 、(2006年に) <u>地熱・太陽・風力が多く使われている</u> (60.7%)。	〔外国の状況〕

- ・リストの中の内容で、触れられなかったものは、次のように質問し、子どもの発話を引き出す。

質問例

- 1. 35年以上前は、何が一番多く使われていましたか。いつ石油が一番多く使われていましたか。
- 2. 今から5,6年前は、何が一番多く使われていましたか。
- 3. どうして原子力は使えなくなってしまうかもしれないのですか。
- 4. アイスランドではどんなエネルギー源が多く使われていますか。
- 5. どうして日本のエネルギーは石油から原子力に変わってきましたか。  
解答例: オイルショックの後、石油が日本に来なくなったら大変なことになるということになったからです。
- 6. 先生はみんなにどんなことを考えるように言いましたか。  
解答例: 日本の将来のエネルギーがどうなるかについて考えるように言いました。

② 感想・意見：聞いた内容について感想や意見が言えるか。

😊 このビデオは、面白かったですか。どんなところが面白かったですか。

- ・何が面白かったか、どうして面白かったのか、聴いてみる。面白くなかった場合も同様に聴く。

😊 ビデオを見て、日本の将来のエネルギー源はどうなると思いますか。意見を教えてください。

- ・自分の体験と結び付けてどう感じた/思ったか話させる。

③ 聴解用DVDの言葉：ビデオの中の言葉が理解できたか。

😊 ビデオの中にわからない言葉がありましたか。どんな言葉がわかりませんでしたか。

④ 母語の状況：母語力の高い児童には次のような質問をして母語での聴く力をさぐる。

😊

- ・〇さんは、(国の名前)で学校に行っていましたか。
- ・日本へ来る前、(国の名前)では何年生でしたか。
- ・(国の名前)の学校で、エネルギーの勉強をしたことがありますか。

😊 ビデオの話がよく聴けましたね。では、これで終わります。

## 聴くまえに....

- ① テーマの紹介と確認：これからすることを児童のやる気が増すように楽しく説明する。

😊 これから「地震」のビデオを見ます。「地震」ってわかりますか。

- ② キーワードの確認：必要があったら、視覚補助教材(11)(12)を示して、キーワードを確認する。

😊 これは「地震」の絵です。この絵を見てください。

・例えば、次のような応答をする。「これは震度表です。これはどんな地震ですか。」「強い地震ですね。震度4の地震です。」…/「震度4の時、何が揺れますか。」「本棚が揺れますね。」…

- ③ 興味・関心：テーマについて知っていることを確認し、興味・関心を高める。

😊 地震について勉強したことがありますか。/大きい地震にあったことがありますか。

・話が広がらないように注意する。

## 聴きましょう....

- ① 聴解用DVDを聴かせる。

😊 では、これからビデオを見ましょう。  
先生が、地震の揺れの程度や特徴について説明しています。  
先生の話をよく聴いてください。後で、質問しますよ。

・聴解用DVD視聴中にわからない言葉があったら、後で質問するように指示する。

😊 わからない言葉があったら、後で聴いてくださいね。では、始めます。

・DVDが終わったら、声かけをする。

😊 ビデオはこれで終わりです。よく聴けましたね。

## 聴いたあとで....

- ① 話の大筋再生：DVDを聴いて、子どもが話の内容を再生する。

😊 さあ、先生はどんなお話をしましたか。話してください。

- ・下の話の大筋再生チェックリストを参考に、どのくらい理解できているかチェックする。  
リストの通りでなくともよい。

話の大筋再生チェックリスト

<input type="checkbox"/> 1. 地震の話をした。	[テーマ]
<input type="checkbox"/> 2. 地震の強さを表すのに震度とマグニチュードという二つの言葉が使われている。	[用語]
<input type="checkbox"/> 3. 震度は、地震の揺れの大きさを表している。	[震度の定義]
<input type="checkbox"/> 4. 震度は10に分かれている。	[震度表]
<input type="checkbox"/> 5. 地震は、最初は弱く後から強い揺れがくるという特徴がある。	[特徴]

- ・リストの中の内容で、触れられなかったものは、次のように質問し、子どもの発話を引き出す。

質問例

- 1. 先生はどんな話をしましたか。
- 2. 地震の強さを言う時、どんな言葉を使いますか。震度とマグニチュードは同じですか。
- 3. 震度は何ですか。
- 4. 震度表はいくつに分かれていますか。 震度1はどんな地震ですか。
- 5. 地震のゆれの特徴は何ですか。

② 感想・意見：聞いた内容について感想や意見が言えるか。

☺ このビデオは、面白かったですか。どんなところが面白かったですか。

- ・何が面白かったか、どうして面白かったのか、聴いてみる。面白くなかった場合も同様に聴く。

☺ このビデオの授業の話は、役に立つと思いますか。どうしてそう思いますか。

- ・自分の体験と結び付けてどう感じた/思ったか話させる。

③ 聴解用DVDの言葉：ビデオの中の言葉が理解できたか。

☺ ビデオの中にわからない言葉がありましたか。どんな言葉がわかりませんでしたか。

④ 母語の状況：母語力の高い児童には次のような質問をして母語での聴く力をさぐる。

☺ ・〇さんは、(国の名前)で学校に行っていましたか。  
・日本へ来る前、(国の名前)では何年生でしたか。  
・(国の名前)の学校で、地震の勉強をしたことがありますか。

☺ ビデオの話がよく聴けましたね。では、これで終わります。

名前： \_\_\_\_\_ (男・女) 学年(所属)： \_\_\_\_\_ 年 月 日

・次の項目を評価し、得点(5・3・1点)に○をつける。判断に揺れる場合は中間を選択し、4点、2点をつけてもよい。

■評価基準■ 5:とてもよくできる 3:ふつう 1:もう少し

聴解力			
1	教師の話の内容と大筋	教師の話の内容と大筋が大体理解できる	5 3 1
2	感想	感想や意見が言える	5 3 1
聴解行動			
3	集中	集中して最後まで聴ける	5 3 1
4	関心	関心を持って聴ける	5 3 1
5	未習語	未習語があっても推測して聴こうとする	5 3 1
語彙・表現			
6	テーマにかかわる語彙・表現が大体理解できる		5 3 1
7	話の中の大事な語彙が大体理解でき、使おうとする		5 3 1
総合評価			
備考(母語の状況)		総合得点	
		総合点⇒ /7=平均点⇒	

名前： \_\_\_\_\_ (男・女) 学年(所属)： \_\_\_\_\_ 年 月 日

・次の項目を評価し、得点(5・3・1点)に○をつける。判断に揺れる場合は中間を選択し、4点、2点をつけてもよい。

■評価基準■ 5:とてもよくできる 3:ふつう 1:もう少し

聴解力			
1	教師の話の内容と大筋	教師の話の内容と大筋が大体理解できる	5 3 1
2	感想	感想や意見が言える	5 3 1
聴解行動			
3	集中	集中して最後まで聴ける	5 3 1
4	関心	関心を持って聴ける	5 3 1
5	未習語	未習語があっても推測して聴こうとする	5 3 1
語彙・表現			
6	テーマにかかわる語彙・表現が大体理解できる		5 3 1
7	話の中の大事な語彙が大体理解でき、使おうとする		5 3 1
総合評価			
備考(母語の状況)		総合得点	
		総合点⇒ /7=平均点⇒	



名前： \_\_\_\_\_ (男・女) 学年(所属)： \_\_\_\_\_ 年 月 日

・次の項目を評価し、得点(5・3・1点)に○をつける。判断に揺れる場合は中間を選択し、4点、2点をつけてもよい。

■評価基準■ 5:とてもよくできる 3:ふつう 1:もう少し

聴解力			
1	教師の話の内容と大筋	教師の話の内容と大筋が大体理解できる	5 3 1
2	感想	感想や意見が言える	5 3 1
聴解行動			
3	集中	集中して最後まで聴ける	5 3 1
4	関心	関心を持って聴ける	5 3 1
5	未習語	未習語があっても推測して聴こうとする	5 3 1
語彙・表現			
6	テーマにかかわる語彙・表現が大体理解できる		5 3 1
7	話の中の大事な語彙が大体理解でき、使おうとする		5 3 1
総合評価			
備考(母語の状況)		総合得点	
		総合点⇒ /7=平均点⇒	

名前： \_\_\_\_\_ (男・女) 学年(所属)： \_\_\_\_\_ 年 月 日

・次の項目を評価し、得点(5・3・1点)に○をつける。判断に揺れる場合は中間を選択し、4点、2点をつけてもよい。

■評価基準■ 5:とてもよくできる 3:ふつう 1:もう少し

聴解力			
1	教師の話の内容と大筋	教師の話の内容と大筋が大体理解できる	5 3 1
2	感想	感想や意見が言える	5 3 1
聴解行動			
3	集中	集中して最後まで聴ける	5 3 1
4	関心	関心を持って聴ける	5 3 1
5	未習語	未習語があっても推測して聴こうとする	5 3 1
語彙・表現			
6	テーマにかかわる語彙・表現が大体理解できる		5 3 1
7	話の中の大事な語彙が大体理解でき、使おうとする		5 3 1
総合評価			
備考(母語の状況)		総合得点	
		総合点⇒ /7=平均点⇒	

名前： \_\_\_\_\_ (男・女) 学年(所属)： \_\_\_\_\_ 年 月 日

・次の項目を評価し、得点(5・3・1点)に○をつける。判断に揺れる場合は中間を選択し、4点、2点をつけてもよい。

■評価基準■ 5:とてもよくできる 3:ふつう 1:もう少し

聴解力			
1	教師の話の内容と大筋	教師の話の内容と大筋が大体理解できる	5 3 1
2	感想	感想や意見が言える	5 3 1
聴解行動			
3	集中	集中して最後まで聴ける	5 3 1
4	関心	関心を持って聴ける	5 3 1
5	未習語	未習語があっても推測して聴こうとする	5 3 1
語彙・表現			
6	テーマにかかわる語彙・表現が大体理解できる		5 3 1
7	話の中の大事な語彙が大体理解でき、使おうとする		5 3 1
総合評価			
備考(母語の状況)		総合得点	
		総合点⇒ /7=平均点⇒	

名前： \_\_\_\_\_ (男・女) 学年(所属)： \_\_\_\_\_ 年 月 日

・次の項目を評価し、得点(5・3・1点)に○をつける。判断に揺れる場合は中間を選択し、4点、2点をつけてもよい。

■評価基準■ 5:とてもよくできる 3:ふつう 1:もう少し

聴解力			
1	教師の話の内容と大筋	教師の話の内容と大筋が大体理解できる	5 3 1
2	感想	感想や意見が言える	5 3 1
聴解行動			
3	集中	集中して最後まで聴ける	5 3 1
4	関心	関心を持って聴ける	5 3 1
5	未習語	未習語があっても推測して聴こうとする	5 3 1
語彙・表現			
6	テーマにかかわる語彙・表現が大体理解できる		5 3 1
7	話の中の大事な語彙が大体理解でき、使おうとする		5 3 1
総合評価			
備考(母語の状況)		総合得点	
		総合点⇒ /7=平均点⇒	

名前： \_\_\_\_\_ (男・女) 学年(所属)： \_\_\_\_\_ 年 月 日

・次の項目を評価し、得点(5・3・1点)に○をつける。判断に揺れる場合は中間を選択し、4点、2点をつけてもよい。

■評価基準■ 5:とてもよくできる 3:ふつう 1:もう少し

聴解力			
1	教師の話の内容と大筋	教師の話の内容と大筋が大体理解できる	5 3 1
2	感想	感想や意見が言える	5 3 1
聴解行動			
3	集中	集中して最後まで聴ける	5 3 1
4	関心	関心を持って聴ける	5 3 1
5	未習語	未習語があっても推測して聴こうとする	5 3 1
語彙・表現			
6	テーマにかかわる語彙・表現が大体理解できる		5 3 1
7	話の中の大事な語彙が大体理解でき、使おうとする		5 3 1
総合評価			
備考(母語の状況)		総合得点	
		総合点⇒ /7=平均点⇒	

名前： \_\_\_\_\_ (男・女) 学年(所属)： \_\_\_\_\_ 年 月 日

・次の項目を評価し、得点(5・3・1点)に○をつける。判断に揺れる場合は中間を選択し、4点、2点をつけてもよい。

■評価基準■ 5:とてもよくできる 3:ふつう 1:もう少し

聴解力			
1	教師の話の内容と大筋	教師の話の内容と大筋が大体理解できる	5 3 1
2	感想	感想や意見が言える	5 3 1
聴解行動			
3	集中	集中して最後まで聴ける	5 3 1
4	関心	関心を持って聴ける	5 3 1
5	未習語	未習語があっても推測して聴こうとする	5 3 1
語彙・表現			
6	テーマにかかわる語彙・表現が大体理解できる		5 3 1
7	話の中の大事な語彙が大体理解でき、使おうとする		5 3 1
総合評価			
備考(母語の状況)		総合得点	
		総合点⇒ /7=平均点⇒	

ステージ	聴解力	聴解行動	語彙・表現
6	□教師の話の内容の大筋と流れがよく理解できる	□教師の話の内容に関心を持ち、集中して最後まで聴け、それを基に積極的に授業に参加できる	□授業のテーマに関連した語彙・表現がよく理解できる
5	□教師の話の内容の大筋と流れがある程度理解できる	□教師の話の内容に関心を持ち集中して最後まで聴け、それを基に授業にある程度参加できる	□授業のテーマに関連した語彙・表現がある程度理解できる
4	□教師の話の内容の大筋と流れが部分的に理解できる □身近な内容の話の聴いて大体理解できる	□教師の話の内容に関心を持ち集中して最後まで聴け、それを基に授業に部分的に参加できる □身近な内容の話を、最後まで聴こうとする	□授業のテーマに関連した語彙・表現が部分的に理解できる □身近な内容の話の語彙・表現が大体理解できる
3	□ごく短い身近な内容の話を聴いて支援を得てある程度理解できる	□ごく短い身近な内容の話を、支援を得て最後まで聴ける	□ごく短い身近な内容の話の語彙・表現がある程度支援を得て理解できる
2			
1			

評価対象外

# 第7章 測定の記録と評価・個人指導記録

この章では、DLAで測定した日本語能力の結果の記録及び評価の仕方について詳述します。あわせて、児童生徒の個人データの記録の事例を紹介します。

## 【測定の記録と評価】

### (1) 測定の目的

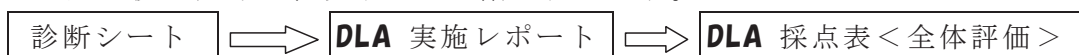
- DLAは、外国人児童生徒の日本語能力を3つの側面（CF／会話の流暢度、DLS／弁別的言語能力、ALP／教科学習言語能力）から把握し、記録するものです。

測定能力 テスト名	①CF (会話の流暢度)	②DLS (弁別的 言語能力)	③ALP (教科学習 言語能力)
●DLA〈話す〉	○	○	○
●DLA〈読む〉		○	○
●DLA〈書く〉		○	○
●DLA〈聴く〉			○

- 記録にあたっては、児童生徒の母語、年齢、入国年齢、滞在年数を記載し、日本語能力を把握するための基礎情報として活用します。
- 評価の結果については関係者間で共有し、児童生徒に対する日本語指導の内容や方法、支援体制の在り方を検討するための基礎資料として活用します。

### (2) 測定後の記録の方法

- DLA実施後の記録は、以下の3段階で行います。



- 測定後の記録は、まず技能別（話す・読む・書く・聴く）の「診断シート」に記録します。
- 次に、「診断シート」で得られた結果を「DLA実施レポート」（p.139）に記録します。
- その後、「DLA採点表〈全体評価〉」（p.140）に記録します。その際に、「JSL評価参照枠〈技能別（話す・読む・書く・聴く）〉」で示されている各技能の下位能力の特徴を参照して、ステージを特定します。
- 下位能力は同一ステージになることは希で、でこぼこになることが一般的です。

### (3) 「JSL評価参照枠〈全体〉」の判定方法

- 「DLA採点表〈全体評価〉」表の右側にある「JSL評価参照枠〈全体〉」は、各技能のステージを参考にして判定します。
- その際に、左側に記録した下位能力がでこぼこであるために、全体的な能力のステージを判定することがむずかしくなります。そのような場合には、「JSL評価参照枠〈全体〉」（p.8）の「子どもの在籍学級参加との関係」から支援の段階を検討し、ステージを判定します。



#### （４）記入例

「JSL 評価参照枠」の〈技能別〉のステージと〈全体〉のステージはその解釈において同一ではありません。子どもの言語能力は個人差が大きく画一的な判定が困難であるために、技能別の下位能力毎の能力記述文が必ずしも全体の能力ステージと一致させられないからです。

後続するページでは、2人の児童生徒の測定結果について、「DLA 実施レポート」と「DLA 採点表〈全体評価〉」への記入例を提示した上で、〈総評〉として結果の解釈を記述してまいります。これらを参考に、結果を有効に活用してください。

#### 【個人指導記録】

子どもの日本語能力は、母語、年齢、入国年齢、滞日年数（四大要因）によって影響を受けるので、子どものステージ判定には、これらの要因にかかわるデータを収集し、参考にすることが大切です。ここでは、ステージ判定や指導に活用する「日本語指導が必要な児童生徒の指導記録」フォーム（後続頁）を紹介します。指導記録には、「基礎データ」と「学習データ」のページがあります。

##### （１）基礎データシート

子どもたちを理解するために必要な情報です。毎年加筆修正を加えて残していきます。家庭内の使用言語、生育歴、学習歴、1年間の累積指導時間数など、母語や日本語の習得に影響がある情報を記載します。

特に移動の多い子どもの場合、生育歴や学習歴の把握は非常に大切です。幼児期に文化や言語間を移動している子どもも多く、幼児期の状況や、不就学期間の有無なども、聞き取りをしておきたいことです。

こうした個人情報に関わる事項を聞くためには、子どもや保護者の母語が分かる通訳や支援者の助けが不可欠で、子どもの指導に必要な情報であるという共通認識が求められます。同時に、取扱いには注意が必要です。

##### （２）学習データシート

DLA のどの部分をいつ実施したかという情報を「DLA 実施記録」の欄に記録します。その他に、児童生徒の日本語や教科の理解の状況や、それに対応する日本語指導の内容や評価、次年度への申し送り等、学習に関わる情報を年度毎に記録します。

日本語指導担当者が変わったり、児童生徒が転校したりすると、それまでの情報が引き継がれず、指導が分断されてしまうことも少なくありません。こうした状況は、児童生徒にとって望ましいことではありません。指導を継続して行うためには、記録を残し、情報を共有することが大切です。小学校から中学校への進学時や、転校時に、指導記録も引き継がれることが望ましいでしょう。

「日本語指導が必要な児童生徒の指導記録」の参考フォームに合わせて、中学校版の記入例を掲載しましたので、参考にご覧ください。





事例1 : 9歳(小学3年生)の男子児童(日本生まれ)の評価結果

名前:ロドリゴ(男・女) 年齢(学年):9歳(小3) 母語:ポルトガル語(家庭での会話は主に母語、読み書き不可)  
 入国年齢:日本生まれ 滞在年数:9年2ヶ月 記録日:2012年9月30日 記録者:佐藤(日本語担当)

DLA実施レポート

語彙力チェック	日本語	87.2%(48/55)	母語	85.5%(47/55)
DLA〈話す〉	実施タスク	基礎タスク(○) 対話タスク(○) 認知タスク(○)		
	得点	1   3   3.2   5		
DLA〈読む〉	実施テキスト	A - B - C1 - C2 - D - E - F		
	得点	1   3.0   5		
DLA〈書く〉	実施課題	W1 - W2 - W3 - W4 - W5 - W6 - W7 - W8		
	得点	1   1.8   3   5		
DLA〈聴く〉	実施DVD	A1 - A2 - A3 - B4 - B5 - B6 - B7 - B8		
	得点	1   3   4.0   5		

DLA採点表〈全体評価〉

ステージ	DLA〈話す〉						DLA〈読む〉						DLA〈書く〉						DLA〈聴く〉			JSL評価参照枠(全体)	支援の段階				
	話の内容とまとめ	文・段落の質	文法的正確度	語彙	発音・流暢度	話す態度	総合	読解力	読書行動	音読行動	語彙・漢字	読書習慣・興味・態度	総合	内容	構成	文の質・正確度	語彙・漢字力	書字力・表記ルール	書く態度	総合	読解力			聴解行動	語彙・表現	総合	
6																											支援付き 自律学習 段階
5																											
4	○	○	○	○	○	●		○														○	○	○	●		個別学習 支援段階
3							○		○	○	●	○		○		○				●					●		
2											○		○		○		○									初期支援 段階	
1																											

〈総評〉

- ・ 二言語ともに、日常よく耳にする語彙はできていましたが、少し低頻度の語彙はまだ身につけていないようです。
- ・ 会話の場面で話したり、聞いたりすることには問題がないですが、教科の知識を必要とする会話では十分な受け答えができませんでした。教科に関する語彙が不足しているようです。
- ・ 〈読む〉では年齢相応レベルの読み物には抵抗を示しましたが、小学1年生前半レベルの短い読み物であれば、楽しんで読み、大筋を理解し、感想を言うことができました。音読の力はまだ十分ではありませんが、想像力は大変豊かです。
- ・ 〈書く〉では、書くことへの強い抵抗がみられました。支援を得て、文をいくつか書くことはできますが、段落を作り、まとめた文章を書くのはまだ難しいようです。助詞や表記ルールの間違いも目立ちました。
- ・ 〈聴く〉で測定した授業を聴く力は、少し易しい内容で、映像などの視覚的な助けがあれば、よく理解できるようです。短い時間でしたが、集中して最後まで聴くことができました。
- ・ 〈話す〉、〈聴く〉は大体ステージ4、〈読む〉、〈書く〉はステージ3で、総合的には、まだ個別学習支援が必要なステージ3であると言えるでしょう。
- ・ 学年で期待されているレベルより少し下の教材であれば、視覚的な助けや誰かの支援を得て、想像を働かせながら、学習を進めることができそうです。読む、書くことへの抵抗感をなくせるよう、単調な音読練習や書き取り練習ばかりではなく、絵本などの読み聞かせとその後の話し合いや、物語の創作など、励まし楽しみながらできる活動も取り入れるとよいでしょう。JSLカリキュラムを用いた支援も効果的だと思われます。
- ・ 母語での語彙力チェックや母語話者の支援者の話によれば、母語の日常会話力もある程度保持できているようですので、母語でも読み書きを育て、二つのことばから語彙や知識を増やしていけるようにするとよいでしょう。

事例2 : 13歳(中学1年生)の女子生徒(滞在年数2年6ヶ月)の評価結果

名前:リーリン(男・女) 年齢(学年):13歳(中1) 母語:中国語(家庭では母語、年齢レベルに近い読み書き可能)  
 入国年齢:11歳(小5) 滞在年数:2年6ヶ月 記録日:2012年3月15日 記録者:佐藤(日本語担当)

DLA実施レポート

語彙チェック	日本語	92.7%(51/55)	母語	100%(55/55)
DLA〈話す〉	実施タスク	基礎タスク(○) 対話タスク(○) 認知タスク(○)		
	得点	1 _____ 3 3.8 _____ 5		
DLA〈読む〉	実施テキスト	A・B・C1・C2・D・E・F		
	得点	1 _____ 3 3.6 _____ 5		
DLA〈書く〉	実施課題	W1・W2・W3・W4・W5・W6・W7・W8		
	得点	1 _____ 3 _____ 5		
DLA〈聴く〉	実施DVD	A1・A2・A3・B4・B5・B6・B7・B8		
	得点	1 _____ 3 _____ 5		

DLA採点表(全体評価)

ステージ	DLA〈話す〉						DLA〈読む〉				DLA〈書く〉				DLA〈聴く〉				JSL評価参照枠(全体)	支援の段階						
	話の内容とまとまり	文・段落の質	文法的正確度	語彙	発音・流暢度	話す態度	読解力	読書行動	音読行動	語彙・漢字	読書習慣・興味・態度	総合	内容	構成	文の質・正確度	語彙・漢字力	書字力・表記ルール	書く態度			総合	聴解力	聴解行動	語彙・表現	総合	
6								○																		支援付き 自律学習 段階
5	○	○			○	○	○		○		○	○													●	個別学習 支援段階
4			○	○						○																初期支援 段階
3																										
2																										
1																										

<総評>

- ・ <はじめの一步>、<話す>、<読む>を実施しました。時間の都合により、<書く>、<聴く>は実施していません。
- ・ 滞在年数が2年半と比較的短いにも関わらず、<話す>では認知タスク、<読む>では年齢相応のテキストを読むことができ、学習言語の力を含め、大変順調に伸びていると言えます。
- ・ <話す>では、教科用語でわからない語彙があったり、若干の文法的な間違いがみられましたが、説明力が高かったです。
- ・ <読む>では、わからない語彙や漢字、表現はありましたが、その都度、自分から積極的に質問することができ、新しく知った語彙をすぐに説明の中で使うことができていました。大意を掴む力、口頭で要約する力に優れています。音読ではわからない語彙や漢字でつまずくと流暢度は落ちますが、間違いに気づき修正できますし、黙読もできます。黙読のほうがよく理解できるようです。また、自分がどのように読んでいるかをよく意識できていました。書いてある内容を母語でイメージしたり、確認したりしながら読み進めているとのことで、母語で得た知識が役立ったり、内容をまとめるのに母語を活用している様子が見られました。
- ・ 語彙や漢字の不足、若干の文法的な不正確さがありますが、<話す><読む>ともにステージ5と判定されました。特に、学習に対する意欲が高い点が評価できます。在籍学級での学習を進めながら、新しく学習する語彙や知識をさらに強化できるよう、個別の支援を行うなどの対応が効果的でしょう。二言語での読書を通して得る知識や語彙が多いので、よりよい読書環境を作れるようサポートできるとよいでしょう。インターネットの活用も有効です。
- ・ 家庭での会話は全て母語で行い、母語での教科学習も続けているとのことで、そのことが日本語での教科内容の理解や学習意欲、自信にもつながっているようです。これから受験に向けて日本語での教科学習の内容が益々増え、時間の確保が難しいですが、本人が母語での学習を続けられるように周囲も母語の価値を共有し、サポートしていく必要があるでしょう。

# 日本語指導が必要な児童生徒の指導記録

取扱い注意

基礎データシート（毎年、加筆修正をする）

フリガナ		性別		国籍	
氏名		生年月日	年 月 日		
住所		連絡先			
家族 構成	続柄	氏名	国籍	本人との言語	日本語理解の状況・備考

家庭への連絡	<input type="checkbox"/> 日常的な連絡が日本語で可能 <input type="checkbox"/> 懇談会や行事の説明会に通訳が必要	<input type="checkbox"/> 懇談会や行事の説明会が日本語で可能 <input type="checkbox"/> 大切な連絡に翻訳文書が必要
--------	-------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------

就学状況		月												特記事項
学年	年齢	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	就学前の状況や本国の学校・外国人学校での就学状況など分かる範囲で記入する。
	0歳～													
	1～													
	2～													
	3～													
	4～													
	5～													
小1	6～													
2	7～													
3	8～													
4	9～													
5	10～													
6	11～													
中1	12～													
2	13～													
3	14～													

	小学校1年	小学校2年	小学校3年	小学校4年	小学校5年	小学校6年	中学校1年	中学校2年	中学校3年
学級担任名									
日本語指導担当名									
取り出し指導時間 合計									

平成（     ）年度	指導記録	記入者：
指導場所		指導者
<年間の指導状況・指導内容・指導の手立てに対する評価など>		

**◆母語の様子**

<ul style="list-style-type: none"> <li>・母語での教育を受けたことがある。 <input type="checkbox"/>ある <input type="checkbox"/>ない</li> <li>・母語で日常の会話ができる。 <input type="checkbox"/>できる <input type="checkbox"/>できない</li> <li>・母語で書かれた学年相応の文章を読むことができる。 <input type="checkbox"/>できる <input type="checkbox"/>できない</li> <li>・母語を使って学年相応の文章を書くことができる。 <input type="checkbox"/>できる <input type="checkbox"/>できない</li> <li>・母語は現在全く使っていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>本人からの聞き取り</li> <li><input type="checkbox"/>家族からの聞き取り</li> <li><input type="checkbox"/>母語話者の支援者からの聞き取り</li> <li><input type="checkbox"/>母国の学校の成績表（成績表 <input type="checkbox"/>有 <input type="checkbox"/>無）</li> <li><input type="checkbox"/>母語対応テストの結果（テスト名            ）</li> </ul>
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

**◆DLA 実施記録**

	実施日（月・日）	実施内容	結果（詳細は資料を添付）
<b>DLA</b> 〈話す〉			
<b>DLA</b> 〈読む〉			
<b>DLA</b> 〈書く〉			
<b>DLA</b> 〈聴く〉			

**◆来年度に申し送りたいこと**

--

フリガナ	フリガナは、保護者に読み方を確認して記入する。		性別	男	国籍	ブラジル
氏名	指導要録に記載する正式名を記入する。		生年月日	#####年 #月 #日		
住所	##市##町1丁目1番1号 コーポ##1号		連絡先	#####-##-####		
家族構成	続柄	氏名	国籍	本人との言語	日本語理解の状況・備考	
	父	#####	ブラジル	ポルトガル語		
	母	#####	ブラジル	ポルトガル語	日常会話が可能	
	兄	#####	ブラジル	ポルトガル語	ブラジル在住	
家庭への連絡	<input checked="" type="checkbox"/> 日常的な連絡が日本語で可能 <input checked="" type="checkbox"/> 懇談会や行事の説明会に通訳が必要		<input type="checkbox"/> 懇談会や行事の説明会が日本語で可能 <input checked="" type="checkbox"/> 大切な連絡に翻訳文書が必要			

就学状況		月											特記事項	
学年	年齢	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	就学前の状況や本国の学校・外国人学校での就学状況など分かる範囲で記入する。
	0歳～			ブラジル										ブラジル、サンパウロ生まれ
	1～	「就学状況」については、就学前状況や不就学期間の把握も必要である。しかし、詳しい状況が分からない場合も多いので、分かる範囲で記入に努める。												ブラジル
	2～													ブラジル
	3～													ブラジル
	4～	日本の公立保育所											4月に来日し、公立保育所に入所	
	5～	日本の公立保育所											公立保育所	
小1	6～	##市立##小学校											4月1日##市立##小学校入学	
2	7～	##市立##小学校											##市立##小学校2年	
3	8～	##市立##小学校		ブラジルの小学校									##市立##小学校3年 7月帰国	
4	9～	ブラジルの小学校											ブラジル	
5	10～	ブラジルの小学校											ブラジル	
6	11～	ブラジルの小学校									来日不就学		ブラジル ****小学校卒業 1月来日不就学(～3月)	
中1	12～	▲市立▲中学校											4月 ▲市立▲中学校第1学年編入学	
2	13～	▲市立▲中学校											▲市立▲中学校	
3	14～													

	小学校1年	小学校2年	小学校3年	小学校4年	小学校5年	小学校6年	中学校1年	中学校2年	中学校3年
学級担任名	不明	不明	不明				###	###	
日本語指導担当名	不明	不明	不明				****	****	
日本語指導 累積指導時間	不明	不明	不明				週6時間 150時間	週5時間 120時間	



平成（ 24 ）年度 指導記録						記入者：****						
指導場所	本校での取り出し指導					指導者	日本語指導*** ポルトガル語支援@@@					
1年間の指導状況	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
技能別日本語	漢字の学習 作文											
日本語と教科の統合学習	年間を通じて週5時間の取り出し指導。教科によって、「個別指導」と「同学年の少人数の取り出し指導」と「日本語レベルを揃えた異学年の少人数指導」の3パターンでの指導。											
指導時間	日本語や教科の理解の状況など					指導内容や評価など						
<b>数学</b> 週2時間 同学年の 少人数指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>分数、小数を含む基礎計算はできる。</li> <li>数学用語や内容を在籍学級の授業だけでは理解することが難しい。</li> <li>図形については小学校での未習箇所が多く、全く理解できない。</li> </ul>					<ul style="list-style-type: none"> <li>在籍学級の進度に合わせて、特に文字式や方程式の文章題の理解に重点を置いて指導。複雑な文でなければ理解が可能になった。</li> <li>2月の計算コンクールでは、1回目49点、2回目85点で、合格。</li> <li>図形は小学校の学習内容まで戻り、「単位、面積、体積」を集中的に補習指導した。学年相応の問題を解くまでには至っていない。</li> </ul>						
<b>社会</b> 週1時間 個別指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書を一人で読むことができない。社会用語の理解は難しく、初めから学習しない教科と考えている様子。</li> </ul>					<ul style="list-style-type: none"> <li>在籍学級の授業に先行し「地理」を中心に教えた。グラフや地形図、分布図、主題図、写真の読み取りなど、資料を読み取る学習活動に参加することが可能になった。</li> </ul>						
<b>理科</b> 週1時間 個別指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書を一人で読むことができない。</li> <li>「日本語ポルトガル語辞書」を使って理科用語の意味を調べ、ポルトガル語で理解ができる。</li> </ul>					<ul style="list-style-type: none"> <li>在籍学級の進度に合わせて1分野の内容を中心に教えた。特に「生命」の領域では、ポルトガル語対応で用語を理解し、「課題把握をして予想を立て、観察し、考察する」という理科の学習活動に参加することが可能になった。重要語句もよく覚えた。</li> </ul>						
<b>国語</b> 週1時間 日本語が同 程度の異学 年少人数	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢字の読み書きは小学校4年生レベル。</li> <li>生活日誌に100字程度の日記を毎日書くことができる。(主述が整っている)</li> <li>接続語や助詞、指示語の示す意味が正確に把握できていない。</li> </ul>					<ul style="list-style-type: none"> <li>読む活動が重点になっている単元では、要約リライトを使い、場面をとらえ登場人物の心情を読み取る学習を行った。</li> <li>日本語能力試験N2レベルの文法や表現の学習を行った。</li> <li>漢字の宿題を毎日提出することを、習慣付けることができた。</li> <li>12月の漢字コンクールは小4レベルで実施し、90点で合格。</li> </ul>						
<b>英語</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>英語はよく理解できている。指導なし。</li> </ul>					<ul style="list-style-type: none"> <li>実用英語検定の3級を受験し、合格。</li> </ul>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>母親の仕事がない時期があり、経済的に困難な状況が伺われる。就学援助を受けている。</li> <li>部活動はバスケット部。練習には熱心に参加している。</li> </ul>												
<b>◆母語の様子</b>												
<ul style="list-style-type: none"> <li>母語での教育を受けたことがある。 <input checked="" type="checkbox"/>ある <input type="checkbox"/>ない</li> <li>母語で日常の会話ができる。 <input checked="" type="checkbox"/>できる <input type="checkbox"/>できない</li> <li>母語で書かれた学年相応の文章を読むことができる。 <input checked="" type="checkbox"/>できる <input type="checkbox"/>できない</li> <li>母語を使って学年相応の文章を書くことができる。 <input type="checkbox"/>できる <input type="checkbox"/>できない</li> <li>母語は現在全く使っていない。</li> </ul>												
<ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="checkbox"/>本人からの聞き取り</li> <li><input checked="" type="checkbox"/>家族からの聞き取り</li> <li><input checked="" type="checkbox"/>母語話者の支援者からの聞き取り</li> <li><input checked="" type="checkbox"/>母国の学校の成績表 (成績表 <input checked="" type="checkbox"/>有 <input type="checkbox"/>無)</li> <li><input type="checkbox"/>母語対応テストの結果 (テスト名 )</li> </ul>												
<b>◆DLA 実施記録</b>												
	実施日 (月・日)		実施内容				結果 (詳細は資料を添付)					
<b>DLA</b> 〈話す〉	4月23日		基礎会話～認知会話まで				<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; color: red;">           「JSL 評価参照枠&lt;技能別&gt;」のステージを記入。診断シートを資料として添付。         </div>					
<b>DLA</b> 〈読む〉	4月23日		『貝がら』									
	1月10日		『アニメーションとわたし』									
<b>DLA</b> 〈書く〉	7月15日		『学校紹介』									
	3月5日		『学校と地域』									
<b>DLA</b> 〈聴く〉	3月5日		『エネルギー』									
<b>◆来年度に申し送りたいこと</b>												
<ul style="list-style-type: none"> <li>教科の学習内容を理解するのは難しく、自分ひとりでは課題提出ができないことが多い。教科担当者からは「さぼっている」と見られて叱られ、登校を渋ることがある(12月の保護者会での母親の話)。教科の課題の調整が必要である。</li> <li>親子共、高校進学を希望。3月の懇談会では、経済的に私立高校は厳しいとのこと。高校でかかる費用を伝える必要あり。</li> </ul>												